エスペラント

LA REVUO ORIENTA

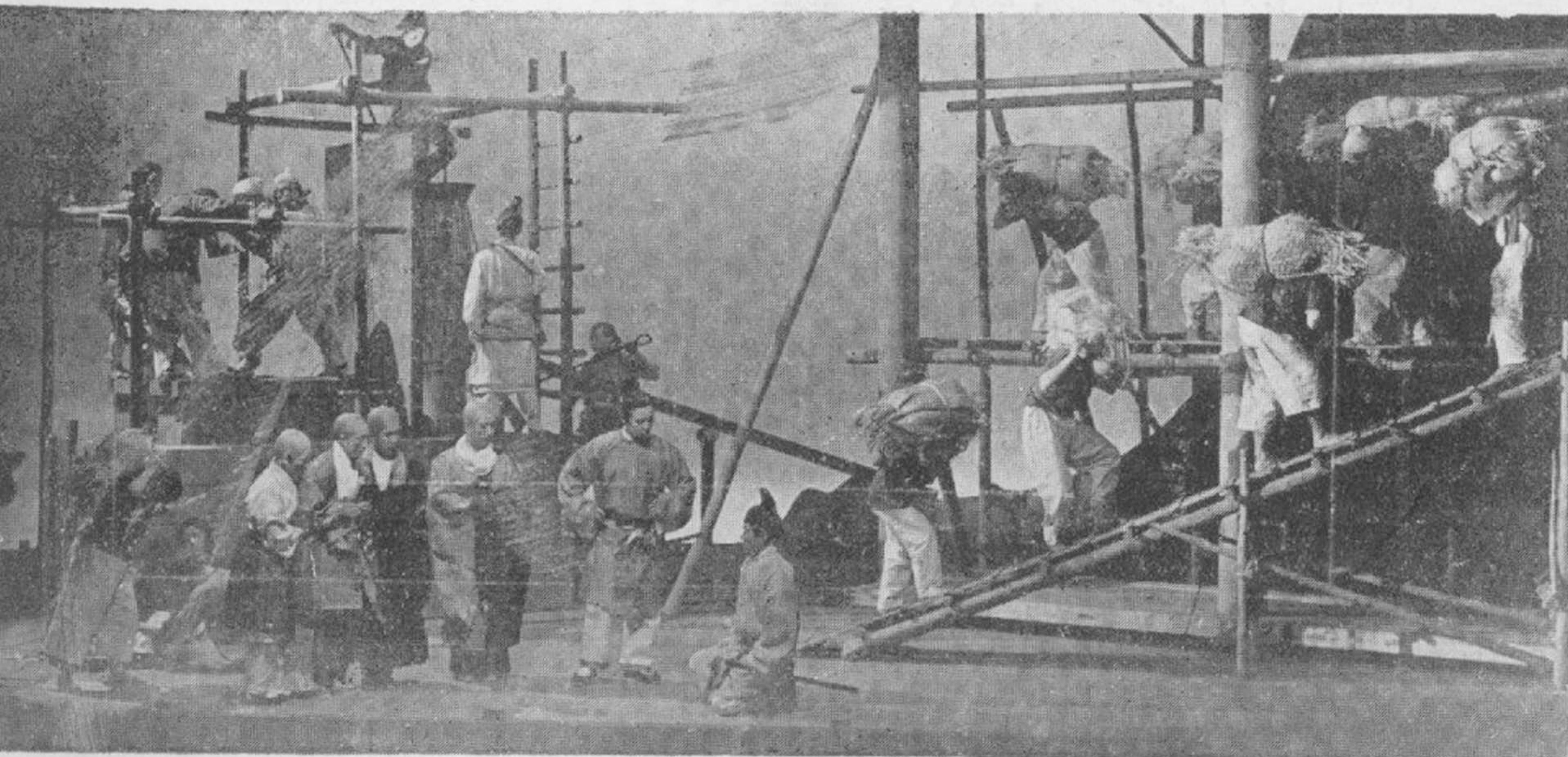
4月號

2600

1940

Aprilo

Jaro XXI N-ro 4



エスペラント

LA REVUO ORIENTA

• Aprilo 1940 •

LA ENHAVO

LA REVUO ORIENTA

Aprilo, 2600 (1940) Jaro XXI N-ro 4

2600 年大會を日向に迎えるに當り

杉田正臣

第28回日本エスペラント大會準備委員長

皇紀 2600 年！

あゝそれは何んとゆう感激に充ちた神嚴な光輝ある日本國民の歡喜の雄叫びであろうか。

謹而愼而遙かに悠久三千年の世界無比の皇國を想うの時，一億同胞の民草が等しく强く感激したであろう。

然して我が肇國の聖地に横わる山川草木と云い，今此の日向の地上を吹く無心の風にも神武天皇の，否天孫御降臨の神代より吹き繼ぎつゝある神風ぞと思われて坐ろに身心の御禊ぎされ淨化されし慶祝の念は欝然として，祖國日向に住む我等獨りの誇りの如く感ぜらるゝのである。

顧うに世界に冠たる日本精神とは總ゆる地球上に咲ける文化の花と平和の愛とを共に哺み育てゆき，悪草蔓る時敢然聖戰の鉾にて除去する破邪顯正の大悲大和の愛をもたらすものであろう。例えば宗教に於ても佛儒耶の各宗も日本に渡來して始めてその淨化を受けて萬華と咲き，西歐の誇る科學さえも今は日本精神の深遠宏大の淨化作用に依り，卽ち御禊祓いをうけて其の精華を發揮せんとしつゝある。

實に北歐の一角に咲き出でしエスペラントの花も亦恐らく日本人の心と情けに依り日本精神の淨化作用をうけて國際語としての眞の使命を達し得る事と思わるゝ。約言すれば世界中の總ての文化が此日本精神の淨化をうけざれば其の眞の生命と眞の使命は達せられない，卽ち世界中のあらゆる人士に依つて處産せられたところのものは一度は必ず日本精神の淨化をうけて，其の純か不純かを試錬せられて始めて世界人類の爲めに必要なる文化となり，人類の血となり肉となり心となる事が決定され，而して普遍化され其の幸福を浴びねばならぬと思う。

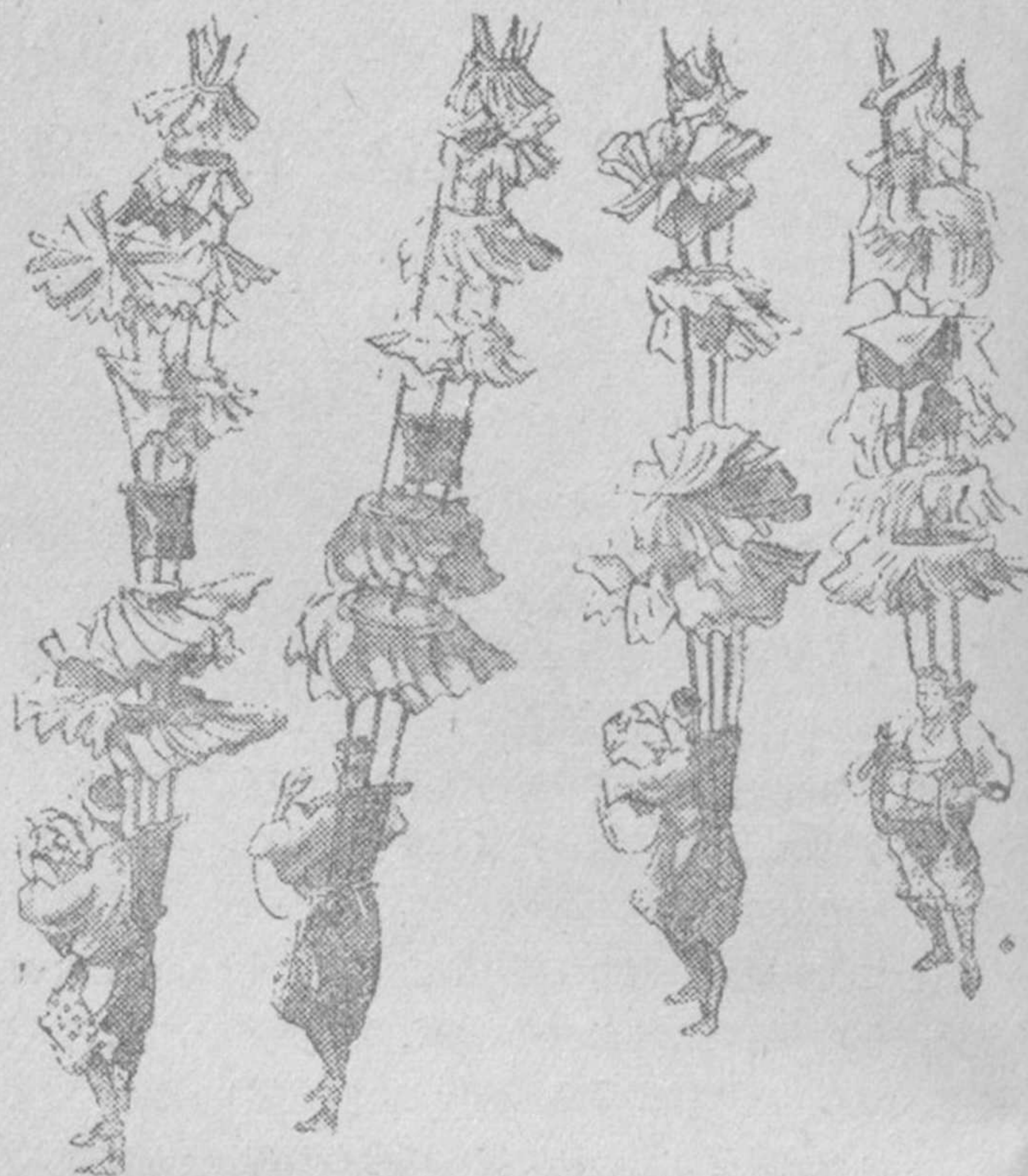
斯く思う時，あらゆる世界の文化の大會が此の日本精神の洗禮をうけるべく日本に於て催されねばならぬ。然も其日本精神の發生の地祖國日向に於てこそ，殊に皇紀 2600 年の記念すべき時に開かれねばならぬと思うのである。

況んや世界文化發展流通の言語への貢獻を背負つて立つ我エスペラント大會を此聖地に於て行うとゆう事は最も意義深くして，又エスペラントの眞面目を達するものであろうとは畏くも宮崎神宮社頭に於て感じたる吾人の信念である。

希くは，全國の同志諸君，この光輝ある年の大會をして，その意義に徹せしめるよう，絶大なる支持を與えられんことを！

Bonvenon,
Samideanoj!

Ni estas jam pretaj



Kun fervora subteno, je nia kortuŝo, de la tutjapana esperantistaro, morala kaj materiala, nia prepara laboro nun atingas plenan pretiĝon.

Neatenditaj multnombraj partoprenontoj estas antaŭviditaj: pro la grava memorindeco de gratulo al la 2600-jara jubileo multopaj aliĝoj alvenadas sinsekve al la oficejo.

Gravaj proponoj, firme starigi nian tendaron konforme al la nova stato de la mondo, memoraj laboroj de la tutjapanaj samideanoj por la nacia jubileo, ktp. ktp.... estu prudente diskutotaj de ĉiuj kompetentuloj. Ni esperas v an nepran kunlaboron.

Do, ni atendas la matenon kun plenplena espero, kiam ni havos la ĝojon vin bonvenigi ĉe la pordo de la proksimiĝanta kongreso.

Prepara komitato de la 28-a Japana Esperanto-kongreso.

☆

Kelkaj perspektivaĵoj de la XXVIII-a

郷土舞踊と民謡

日向に往昔より傳はる郷土舞踊のうち，最も明朗にして生命力の躍動を如實に表現している賑やかにも美しき臼太鼓踊りを，宮崎市観光課の特別の御配慮により，當日晝食の時間を利用して會場前

廣場に於て出演を乞うことになつている。その簡素な，しかも印象的な色彩の裝束と，素朴な大鼓の響につれて動く健康そのものの如き踊り手の動作とが作りなす快い諧調は，蓋し當日の參觀者の讃歎の的となるであろう（カットは松本畫伯筆の臼太鼓踊り）。

尙晩餐會の際には日向の民謠「稗搗節」「刈干切の唄」其他をレコードでおなじみの名手連に特別出演を願うはず。

參加章謹製

エスペラントの精神は我が皇國の八紘一宇の大理想に根本より合致することの深き認識より，宮崎神宮に於ては特に一の鳥居に用いられた神木佐野杉の材を本大會に對し御下附になつたので，準備委員會は此を以て當日參加者の胸を飾る參加徽章を作ることに決し，縣立工藝指導所に，其の製作を依頼中であつたが，寫眞の如き翡翠色の曲玉に朱文字入りの神々しい徽章が出來上つた。

準備委員會よりの御願

1） 分科會申込未だの向は至急御申込ねがいます。

2） 宿舍について特別な御註文のある方は一刻も早く御知らせ下さい。

3） 各地のエス會宛にポスターをお送りしましたから，誠に御手數ですが，エスペラント宣傳の爲に夫々適當な所に掲示御利用願い度いと思います。同志諸賢の御協力を御願いいたします。

4） 參加申込と同時に詳細なインフォルミーロ（第2號）を送つています。未だの方は至急御申込を！



大會々場
宮崎縣教育會館

Ne prokrastu vian aliĝon al la Kongreso,
al la brilanta XXVIII-a!

國際語 ZILENGO の著者
丘淺次郎博士にきく

• それの完成50周年にあたつて •



「先生の Zilengo ができましてから，ことし，ちようど 50 年にあたりますので……また，エスペラントをおはじめになつてからも，來年は50年にあたりますが，これについてはいずれあらためて，お話しいただきたいとおもいますが，きようは，とりあえず，Zilengo について，いろいろ，おうかがいしたいとおもいまして……」

牛込河田町の，しずかな屋敷町——新しいエジプト公使館とむかいあつたお宅に丘博士をおたずねしたのは，2月 26 日の午前 11 時。風はひどく寒いけれど，よく晴れた朝である。鳩時計の鳴き聲がこだまするほど，ひつそりしていて，東京高等師範學校名譽教授とゆう肩書のいかめしさよりも，ermita profesoro とゆう言葉のもつ「さび」が，このすまいの主にふさわしくおもわれる。また，氣がるに玄關に迎えてくださるあたたかさは，帝國學士院會員や理學博士とゆう四角な漢字をならべてはあらわされない。Nia pioniro であり，veterano であり，samideano であり，さては malnova amiko であるとさえ感じられる。

博士の令嬢で，去年の高等科講習には，鎌倉から，毎週かかさずかよわれた佐佐木夫人をとうしてのべてあつた訪問の趣旨をあらためてのべ，さつそく質問にはいる。12時には，佐佐木夫人が見えるとのことで，それまでに，intervjuo をかたづけようとゆうわけ。

——Zilengo にとりかかつたのは，明治 22 年のことですから，51年まえになるわけです。それより 3-4 年まえに Volapük をやつてみましたが，あれには不贊成でした。Volapük に對する不滿から，自分で理想的の國際語を作つてみようとゆう氣になつて，大學の卒業論文を書いてしまうと，さつそくとりかかつたのが Zilengo です。そして，それが，ひととうりできあがつたのが 23 年なのです。

話すことのへたな，この訪問者にとつて，intervjuo は，いつもにがてであるが，博士のお人がらから流れでる，おだやかなお話しぶりは，佐佐木夫人の bopatro 信綱博士のたくまぬゆたかさをおもいださせて，したしみやすいくつろぎをおぼえた。

「Volapük のことは，どうしてお知りになり，御研究は，どうゆうふうになさつたのでございますか」

——たぶん「讀賣」だつたかとおもいますが，新聞で紹介の記事を讀み，外國から書物をとりよせて研究したのでした。

「エスペラントのことは，ドイツで，はじめて御存知になつたようにうかがつておりますが……」

——それは，1891 年4月のことでした。フライベルヒでスエーデン語の辭書を買いに行つた書店で，語學の棚を探しているうちに，偶然，エスペラントの本を發見したのでした。

博士は立つて奥へ入られたが，やがて，小さい册子をもつて出られた。これは，有名なニュールンベルグのトロムペーターの譯した，ザメンホフの "Die Weltsprache "Esperanto" Vollstandiges Lehrbuch nebst zwei Wörterbüchern" で，この 1891 年，ライプチヒのウーリヒ書店から出されたもの，エスペラント書として，43番目の出版物で，16×11 cm, 80 ペイジのものである。

——エスペラントには，多少の不滿がありましたので，すぐには，エスペランチストになりませんでした。その後，明治 41 年に，神田のどこかで，エスペラントの會があつた

とき——

「和強楽堂ではありませんでしたでしようか」

——そうかもしれません。そのことを話し，自分も Zilengo とゆうものを作つたのであるが，これからエスペランチストのなかまにはいると言つたのですが，このことは，その當時の機關誌にはのりませんでした。

しかし，これは，その當時としては，そうゆうことを發表すれば，エスペランチストのあいだに動揺がおこつてはとゆう心配があつたからかもわかりません。

「エスペラントに對する御不滿とゆうのはどんな點でございましたか」。

——これは，いまでも，そうおもつておりますが，重要なのがふたつ，それほどでもないのがふたつあります。

重要なのは，エスペラントに文法的數のあること，接頭字 mal- をつかいすぎることです。かるい方の不滿は，疑問詞の ĉu と，supersigno とについてです。

「Zilengo とは，どうゆう意味でございますか」

——それは，Zi lengo と2語にわけてもいいのです。『われらの言葉』とゆう意味です。

「日本語，フランス語，ジレン語とゆうふうにも聞えそうでございますが……」

——偶然そうなつたわけです。Zi は nia, lengo は lingvo です。單語は，おもにラテン語からとりました。

「では，エスペラントとおなじ單語もたくさんございましよう？」

——たくさんあります。たとへば，homo, patro, amiko, libro, pano... いくらでもあります。frato は fratro としましたが，これなども frato にしても，すこしも，さしつかえありません。いま作れば，單語は全部エスペラントの單語をとつてもよいくらいにおもつています。

「文字と發音とはどうなつておりますか」

——Alfabeto は22文字です。q, w, x, y がありません。發音は，だいたいエスペラントとおなじで，ただ c だけは ĉ の發音です。c の音はありません。しいて，その音をあらわす必要のあるときは ts とつづります。ŝ は sjo であらわし，ĵ は zj であらわしますが，ĵ と ĝ との區別はしません。ĵ と ĝ とははつきりちがつてはいますが，ヨーロッパの各國語でも，いりみだれているほどですから，實際問題としては，區別する必要はないとおもいます。ĥ の音は，國際的でありませんから不賛成です。

「Akcento はどこにありますか。」

——最後の子音のまえの母音にあります。ですから，子音でおわる單語では，最後の silabo に，母音でおわる單語では最後のひとつまえの silabo にあるわけです。

たとえば，donir, fakir, patro, homo とゆうように。

「冠詞はございますか。」

——定冠詞 il だけあります。しかし，これも，普通にはあまり使いません。「アノひと」，「ソノもの」とゆうように，特定であることを，はつきりことわるばあいにだけ使うので，これを指示形容詞とみて，「冠詞はない」と言つてもよいくらいです。

「品詞を示す語尾がございますか」

——名詞と動詞には，はつきりした語尾があります。形容詞と副詞とは語尾で區別しておりましたが，いまでは，これは不必要と考えています。接續詞と前置詞とは區分する必要はありません。

「名詞の數と格とは，どうなつておりますか」

——單數，複數の區別はしません。正確な數の觀念のある今日では，gramatika nombro による區別は不必要ですから。格は，ドイツ語のように4格です。その變化は語尾であらわし，これには a, i, e, o の4文字をあてました。

エスペラントをはじめて見ましたとき，この複數の語尾 -j が，たいへん不滿でした。ザメンホフも，日本語や支那語を知つていたら，單數，複數の區別はしなかつたろうとおもいます。

第1格は a，日本語の「ガ」，「ハ」にあたり，第2格は i，日本語の「ノ」，第3格は e，これは，「ニ」，「ヘ」など，第4格 o は，「ヲ」

にあたるわけです。

「すると，第2格は例外ですが，そのほかは，wa, e, o, とゆうように，日本語とおなじようでございますね」。

——獨立の單語は，akuzativo とおなじく，-o です。前置詞をつけるのも，これです。それから，vokativo として，-u をいれましたが，これはなくてよいとおもいます。たとえば，「父よ」とゆうのは，“O patru!” ですが，“O patro!” でさしつかえありません。

「Zi が nia だとしますと，**人稱代名詞も，名詞とおなじように變化するのでしようか。**」

——そうです。

za, zi, ze, zo のように變化します。

「zo は，どうゆう語原から出ておりますか」。

——最初は mo であらわしましたが，ma が，接續詞の sed の意味に使われますので，zo にあらためたのですが，これはフランス語の je からとつたのです。

それから，

第2人稱　va, vi, ve, vo

第3人稱　la, li, le, lo

で，數による區別も，性による區別もありません。za は mi でもあり，ni でもありますし，la は li, ŝi, ĝi, ili のいずれにもなります。

「その區別をはつきりする必要のあるときには，特別の言葉をつかえばよいわけでございましようね」

記者は，第3人稱に，男性と女性とばかりでなく，人間と動物，あるいは無性物とのあいだに，性の區別をつけなかつたところに，進化論を日本にはじめて紹介した，つめたい自然科學者の眼を，あたたかな博士のなかに，はじめて感じた。

「動詞の變化は……」

——直說法は，エスペラントのように s でおわり，條件法は t でおわりますが，このまえに時をあらわす母音 a, i, o がつきます。直說法 -as, -is, -os, 條件法 -at, -it, -ot でありますが，-as と -is とは，エスペラントとは逆で，-as, -at が過去，-is, -it が現在です。そして -os, -ot が，エスペラントとおなじく，未來です。

「その a が過去で，i が現在とゆうのには，何か根據がありますか。」

——これは alfabeto の順と，時の順をあわせただけです。

それから命令法は -er であらわし，不定法は -ir であらわします。たとえば，エスペラントの ami は amir, amas は amis, amu は amer です。そのほかに，受身をあらわす語尾 -ur があります。amisur 愛される，amasur 愛されるとゆうようになります。

「すると混成時の分詞はどうなりますか」

——發動は -end, 受動は -ed であらわします。たとえば，amisur は is amed と言つてもよいのです。is は，エスペラントの estas にあたるわけです。esti は ir, estis は as, estos は os とゆうように變化します。

「關係代名詞と，疑問代名詞はおなじでしようか」

——別になつています。やはり4格にわかれていて，關係代名詞は，ka, ki, ke, ko で，疑問代名詞は kia, kii, kie, kio です。

「指示形容詞や，疑問形容詞はどうなつておりますか」

——「コノ」が sil,「アノ」が til,「ドノ」が kil, neniu が nil です。

「文のなかにおける語の配置は，どうなておりますか」

——これは，だいたい，ヨーロッパ語流といつてよいのですが，格の區別がはつきりしていますから，固定させる必要はありません。口調の關係や，語意の强さでかえてさしつかえありません。たとえば，人稱代名詞のような短い單語は，普通，動詞のまえにおくようにしますから，Mi donas al vi libron. は Za ve donis libro といいます。

「エスペラントで ĉu のつく疑問文はどういたしますか」

——それは，述語を文の頭においてあらわします。たとえば，Ĉu vi amas lin? は Amis va lo? といいます。

「比較法は，どうなりますか」

——優級は語尾 -ol であらわし，最優級は -im であらわします。たとえば，pli granda は grandol, plej granda は grandim とし

ます。

「否定文は……？」

——エスペラントとおなじように ne をつけます。

「これで，文法については，ひととうりおうかがいしたことになるようにおもいますが，ずいぶん簡單のようにおもわれます。そして，いろいろおうかがいしていて，感じたのでございますが，エスペラントと Zilengo とが非常によく似ている，特に單語など，まつたくおなじものもたくさんあるとゆうことは，ひじようにおもしろいことで，Volapük を御研究になり，それに不滿をお感じになつてお作りになつた Zilengo と，Volapük をまつたく知らないで作つたエスペラントが，これほど似ているとゆうことは特に注意すべきこととおもいます。ことに Ido, Okcidental, Novial, Idiom Neutral などのような，エスペラントのいわゆる改良案などとちがつて，エスペラントの存在すら御存知のなかつた先生が，エスペラント創始とほとんど時をおなじうして，日本で，こんなにもエスペラントに似たものをお作りになつたとゆうことは，エスペラントが，決して偶然の產物でなかつた，たれが作つても，こうしたものにならなければならなかつたとゆうことを物語るものではございませんでしようか。

明治 41 年の日本では，エスペラントを守るためには，Zilengo の名を過去のものとして雜誌に書くことさえはばかる必要もあつたことでございましようが，今日では，むしろ，このことを公けにすることこそ，かえつて，エスペラントの必然性を證明するに役立ちさえすることとおもいます。」

ちようど，こうした結論に達したとき，鎌倉から佐佐木夫人が見えた。

「もう，お話はおすみになつて？」

「ええ，いままでエスペラントでばかり話してたんですよ。うらやましいだろう。」
と答えられた博士は，まことに bona patro であり，そこにかもされる雰圍氣は，esperantista hejmo とゆう言葉で表現するにもつともふさわしいものであつた。

佐佐木夫人をまじえて，話は，さらに，Ido, Novial とひろがり，つきるところがなかつた。

参考文献

「丘博士と下瀬氏」栗飯原晋 (*La Revuo Orienta*, 1931, p. 232)

「思ひ出」丘淺次郎 (*La Revuo Orienta*, 1936, p. 202)

"Skizo de la lingvo internacia Zilengo" 丘淺次郎 (*La Revuo Orienta*, 1936, 530)

"Aliaj projektoj" (Drezen; "*Historio de la Mondolingvo*", 1931, p. 212)

"Oka Asaĵiro" ("*Enciklopedio de Esperanto*" 1933–4)

"Veteranoj" ("*Ora Libro*" 1937).

東京府立第六高女における
エスペラント教授の報告

石　黒　　修

前書き

編輯部からの御註文で東京府立第六高等女學校のエスペラント科について書いて欲しいとゆうのであるが，最初から昭和 12 年 4 月末までのことは，"La Revuo Orienta" の昭和 12 年 6 月號に「東京府立第六高女のエス語科」と題して書いておいたから，ここにはそれ以後現在までについて簡單に御報告することにするから，特に關心と興味をお持ちの方は上述の文を見て頂きたい。（昭和 15 年 2 月）

現在東京府立第六高女におけるエスペラントの組として，私の教えて居るのは 5 年，4 年，3 年，2 年の 4 組である。（5 年は昭和 10 年入學の組で，はじめて正課時間に教え出した組，以下昭和 11, 12, 13 年入學の組である）。授業時間は各組とも毎週 3 回宛である。

昭和 10 年入學の組

現在の 5 年で入學以來 14 名で 3 年まで來たが，4 年になる時，1 名病氣退學轉校，5 年になる時，1 名東京音樂學校に入學退學で現在は 12 名である。

昭和 12 年 10 月から生徒（父兄？）の希望により英語を教えることにして，

Palmer, Venables, Hornby: *The Standard English Readers for Girls*（開拓社）

を昭和 13 年 6 月に卷 1 を終り，7 月から卷 2 を使用。

13 年 4 月（4 年）から毎週 1 回 1 時間宛

The ABC Weekly（英語通信社）

にあて，夏休みには宿題として

Summer Exercises 2（英語通信社）

を使用。

昭和 14 年 4 月，5 年に進級に際して，エスペラント復活の希望が急に多くなつたので，2 組にわけて，英語とエスペラントを複式で教えることにしたが，その後煩わしさをさけて 1 時間交代にした。

その結果エスペラントの組は 8 名で

山本有三（露木清彦譯）霧の中（學會）

城戸崎益敏：エスペラント第一歩讀本（白水社）

小坂狷二：イソップ物語（學會）

を終つて

夏目漱石（西成甫譯）倫敦塔（學會）

を現在やつている。

英語の組は 4 名。

Palmer, Venables, Hornby: *The Standard English Readers for Girls, II*（開拓社）

を終つて

Wakefield: *Stories from Shakespeare*（開拓者）

をやつている。（英語の中出來る 2 名は讀解力は中學 3 年以上といつたところである）。

昭和 11 年入學の組

昭和 12 年 5 月から，文法書として

石黒修：エスペラントの學び方（博文館）

同年 9 月から

野原休一譯：日本書紀，III（學會）

10 月まで，面白そうなところを拔いて讀む。

11 月から英語。

教科書は

Palmer, Venables, Hornby: *The Standard English Readers for Girls, I*（開拓社）

昭和 14 年 4 月（4 年）から

The ABC Weekly（英語通信社）

毎週 1 回 1 時間宛，夏休には

Summer Exercises, 1, 2（英語通信社）

を使用。

昭和 15 年 1 月から讀本卷 2 をはじめて現在に至る。

昭和12年入學の組

昭和12年4月（1年）から6月までĈe-metodo を斷簡して本なしで，7月から

石黒　修：エスペラント第一步(絕版)

を教科書とし，參考書として

石黒　修：國際語の初步（日本書店）

を採用，續いて

田代晃二：エスペラント會話讀本（絕版）

を1年に終り，昭和13年4月(2年)になつて

下村芳司：エスペラント童話本（學會）

城戸崎益敏：エスペラント第一步讀本（白水社）

別に文法として1週1回

石黒　修：エスペラント ABC の讀み方から（太陽堂）

昭和14年10月から英語，昭和15年1月から

The New Pioneer English Readers（開拓社）

を使用，現在に至る。(但し，エス語文法は昭和15年3月に終る豫定)。

昭和13年入學の組

昭和11，12年の樣に，エスペラントについての說明を書いた刷物を作成，入學志願者心得と共に配布，願書には，エスペラント希望，英語希望，どちらでも可，どちらも希望せずの4通りに入學後の志望を記入させたところ，應募者832名中，

英語希望552，エスペラント希望147，どちらでも可119，どちらも希望せず3，不明11であつた。試驗の結果はエスペラント希望者だけでは1組定員の48名に3，4名不足。どちらでも可とゆうものから勸誘して1組とした。

教科書は昭和13年6月まで採用せず，Ĉe-metodo を補つたもので敎え，參考書として

石黒　修：國際語の初步（日本書院）

次いで，

井上萬壽藏：エスペラント讀本（學會）

更に昭和14年10月から文法書として1週1回宛

石黒　修：エスペラント ABC の讀み方から（太陽堂）

昭和14年9月から

下村芳司：エスペラント童話讀本（學會）

を敎えて現在に至る。(3月で終る豫定)。

昭和14年はエスペラント學級は募集しなかつたので組がない。

辭典は各組ともエスペラントでは

石黒　修：エス和新辭典（太陽堂）

岡本好次：新撰和エス辭典（學會）

英語では，携帶用，家庭用として

土居光知・島村盛助・田中菊雄：英和辭典（岩波書店）

岡倉由三郎：新英和大辭典（研究社）

をすゝめている。

エスペラントの課外は私自身の時間の都合もあり，昭和13年からずつとやつて居ない。

昭和12年12月26日に設立した第六高女エスペラント會では，同校圖書室内に「エスペラント文庫」として書棚を新調，その後相當圖書を購入してちよつと恥かしくないまでになつて居る。綠星旗も立派なものが出來た。

文庫，その他の經常費は，校長丸山丈作氏の還曆祝に同校卒業生在校生から贈られた金圓の一部と，エスペラント科の組の父兄などからの寄附金，生徒から每月10錢宛を會費として收めたものでまかなつて居り，基金も多少出來て居る。

本や雜誌も時折內外のエスペラント關係者などから寄贈もある。(こゝについでながら感謝の意を表したい)。

エスペラント雜感

エスペラントを學校で敎えるための一番の問題は制度である。本當の私立の學校なら別として，文部省認定である以上はその定むるところに準據しなければならず，まして公立學校ではなかなか容易なことではない。その點これだけの試みを實行された校長丸山丈作氏の英斷と苦心の並大抵のものではないことをエスペラントの仲間は充分銘記して欲しいと思う。

私なども色々中傷や誤解を受けて來たが，それは偏見や曲解であり，大して意とするにあたらないと思つて，正しいと信ずるところをやつて來た積りである。幸い私は丸山氏の

樣な校長の下で，又エスペラントの仲間以外にも理解して下さつて居る方があるためにどうやらこゝまで來た。

しかし，1週12時間，晝間の時間を規則的に割いて，待遇らしい待遇を受けずに，生活の餘裕のない身分としては，我ながらよくもつとめて來たといつた感じもする。

エスペラントの仲間には熱心な人は澤山ある。しかし，10年，20年と續けて，これに力を傾けて居る人は生活に惠まれた人か，仕事の傍に餘暇でやつて居る人々である。といつてもこれはエスペラントではまだ生活が出來ないからで，出來る樣になつたらそれにかゝる人はいくらも出來よう。しかし，エスペラント運動にしても，國語國字運動にしても，現在ではそれは望まれない。望まれないからといつてしなければいつまでも出來ない。誰かがしなければならない。

それを物好きと思つたり，道樂にやつて居る位に考える人も世の中にはないでもない。世間には何もまとまつたことをしないで高くとまつて居て，ケチをつける人はある。しかし，そんな人達はどうでもいゝ。まず自分ではじめなければ運動は出來るものではない。

エスペラント教授は制度の問題だといつたが，人の問題の方がもつと大切かも知れない。

教科書，その他について述べたいこともあるが，それは大體前に本誌で發表したものの中にも述べておいたから，最近のエスペラント運動の低調を見るにつけ，特にこれだけつけ加えておく。

〔公告〕

學力検定合格者

高等　下記の諸氏は，學力検定規約附則第2項により高等學力認定證の附與を申請されましたので，試驗委員會の詮衡の結果，これを適當と認め，與えることにしました。

昭和15年1月1日

財團法人日本エスペラント學會
理事長　大石和三郎

169. 原田三馬（根室・會社員），170. 橋本竹彦（臺北），171. 角尾政雄（高岡），172. 中村重利（香港・教員），173. 山縣光枝（新京・博物館勤務），174. 脇坂圭二（小樽），175. 高橋謙（廣島・醫博），176. 大野昌一（松江），177. 浦田時雄（福知山・鐵道職員），178. 福島武兵，179. 石崎分一（大連・醫師），180. 西田亮哉（堺・僧侶），181. 田口龍雄（神戸・海洋氣象臺），182. 三崎豐市（札幌・鐵道局），183. 立石隆（福岡縣・教諭），184. 川村信一郎（東京・會社技師），185. 田畑喜作（東京・傳研），186. 栗山かづ子（東京・鐵道局），187. 相澤治雄（札幌），188. 小松文夫（東京・學會評議員・鐵道省），189. 伊藤武雄（東京・鐵道省），190. 松田周次（金澤・商業），191. 山本國美（大阪府・鐵道工場），192. 松本健一（滿洲國・金融合作社），193. 河野政好（埼玉縣・鐵道職員），194. 福田仁一（小樽・商業），195. 野村佐一郎（滋賀・船醫），196. 金子美雄（東京・厚生技師），197. 神潔（青森・營林局），198. 葛西藤三郎（青森・縣廳），199 菊澤季生（仙臺・教諭）

普通　下記の諸氏については，規約第14項にもとずく推薦がありましたので，試驗委員會の詮衡の結果，普通學力認定證を與えることになりました。

昭和15年3月1日

財團法人日本エスペラント學會
理事長　大石和三郎

83. 小林胖（東京・學生），84. 鈴木辰男（東京・會社員）（以上2人，推薦者三宅史平）

注　意

☆附則による高等學力無試驗検定の受付は，昨年末をもつてしめきりました。そして，うえに揭げたのをもつて合格者の發表をおわりました。申請された方で，萬一，いままでに發表もなく，なんらの通知も受取つていられないかたがあれば，とりいそぎ幹事あておもうしいでくださいませ。そのばあいは，申請のおよその日附と，申請料を，いつ，なにでお拂込みになつたかをお書きそえください。
☆認定證は順次作成してお送りしておりますが，多數のため，すこしおくれているむきもあります。3月中には全部發送をおわりたいとおもつております。

試驗委員會幹事

Kritiko al Decimala Sistemo

Oni lernas la matematikon laŭ la decimala sistemo (十進法). Oni havas nenian dubon pri tiu sistemo. Sed ĉu la decimala sistemo estas vero?

Mi pensas ke la decimala sistemo estas vero, sed ĝi estas nenio pli ol unu metodo en la matematiko. Mi dubas, ĉu la decimala sistemo estas la plej oportuna aŭ racia metodo en la matematiko.

Duono de dek estas kvin, duono de kvin estas du kaj duono ($2\frac{1}{2}$). Tio ĉi estas tre maloportuna, ĉar kvarono, estante unu kvadranto (一象限) de la cirklo (圓), devas esti fundamenta nombro (基本數) t. e. entjero (整數), eĉ se okono estas frakcio (分數).

Cirklomezurado (弧度法) estas nia originala fundamento pri la ideo de nombro.

Se ni prenus "Ok", anstataŭ "Dek", kiel la unuon de la fako (區切) de nombro, tio estus eble pli oportuna.

Sed "Tri" estas la fundamenta ideo de nombro pri la geometria plano (平面) kaj ankaŭ "Ses" pri la ideo de kubo (立體).

Tiel ni havas kvar fundamentajn ideojn de nombro:

"Du"=ideo de paro, ideo de kontraŭstaro
"Tri"=fundamenta ideo de la geometria plano
"Kvar"=unu kvadranto de la cirklo
"Ses"=fundamenta ideo de la kubo

"La plej malgranda komuna oblo (最小公倍數)" de Du, Tri, Kvar kaj Ses estas "dekdu". Do "Dekdu" eble estus la plej oportuna fako de nombro.

Pri "kvin" kaj "sep" aŭ "dek" ni havas nenian fundamentan ideon. La homoj tamen havas kvin fingrojn, en ambaŭ manoj dek. Sed kvin kaj dek ne havas matematikan fundamentan ideon.

Ah! Kiel ajn estas pura principo, la numeraloj kaj ciferoj estas jam fiksitaj. Kaj estas tre malfacile, ke ni nove kreu novajn numeralojn por dekunu kaj dekdu, ekzemple kiel angla elf, twelf k. c., kaj la nunajn numeralojn (dektri aŭ pli ol dektri) korekti.

Mi ne ŝatas subtilan korekton en la matematiko. Mi prefere respektas la decimalan sistemon. Mi ŝatas la metran sistemon.

Ja mi ofte songâs jene.

En la okmala (八進法) sistemo, la nuna sesdek ses (=8×8) estas cent nova.

En la dekdumala sistemo (十二進法), la nuna cent kvardek kvar (=12×12) estas cent nova.

En la okmala sistemo ni nomus la nunan naŭ, dekunu. Mi ne deziras korekton en la matematikon, sed mi deziras, ke oni almenaŭ ekkonu kritikon al la decimala sistemo.

Saitiro NOMURA

D-ro ASADA-HAZIME

Pri Fantomo

Kiel sciencisto mi ne kredas pri la ekzisto de fantomo. Sed ofte oni informas al mi, ke ekzistas fantomo. Mi nun volas prezenti al vi, legantoj, kelkajn ekzemplojn de tiuj faktoj, kiuj estas kredeblaj.

1.

S-ro T-H estis estro de la vagonekzamenejo de la stacio Nagasaki, kaj loĝis en la oficiala loĝejo. Estis en la noktomezo de la lasta tago de 1927. Li finis sian taskon kaj jam estis ekdormonta en la lito, kiam subite li aŭdis sonon, ke la vitraj glitekranoj malfermiĝas, kaj li vidis apud sia kapkuseno gigantan junulon kun celuloidkadraj okulvitroj sur la nazo kaj kajerujo pendigita de la ŝultro. Terurita li kovris sian kapon per la litkovrilo kaj preĝis al Budao. Ĉirkaŭ kvaronhoron poste li aŭdis sonoradon de la telefono. Li malkovris la kapon, la fantomo ne plu vidiĝis. Per la telefono oni sciigis lin, ke juna subinĝeniero de la filia vagonekzamenejo ĉe la stacio Isahaya, portanta celuloidkadrajn okulvitrojn kaj kajerujon, mortigis sin sub la radoj de la vagonaro plejlasta el Nagasaki. La fantomo ja estis de tiu junulo. Kaj la apero okazis en la sama momento de la morto. La glitekranoj restis fermitaj.

2.

S-ro U-K estis iam en la urbo Sendai kiel kandidato al la Dua Naci[a] Kolegio. Li loĝis en ĉambro ĉe ĉarpentisto. En iu nokto li aŭdis paŝojn ka[j] vidis belan junulinon kun neligita longa hararo, eliranta el la ĉambro ka[j] malsuprenpaŝanta la ŝtuparon. Li sentis frostotremon, liaj haroj hirtiĝis. Li n[e] komprenis la kialon. Post kelkaj tagoj, li hazarde aŭdis, ke la ĉarpentist[o] diras interalie al sia gasto: Ŝi fine mortis. Li demandis al la mastro, k[io] okazis. Laŭ li, en la ĉambro la bedaŭrata "ŝi" kuŝis sur la malsanlit[o] longtempe. Kaj fine antaŭ kelkaj semajnoj la familio translokiĝis en suda marbordon por resanigi ŝin. La ĉarpentisto, parenco de la familio, gardas

domon, kaj luigis la vakantan ĉambron al la junulo. Ĝuste en la nokto, kiam li vidis la fantomon, la junulino mortis de la ma'sano.

3.

S-ro K-H perdis sian malsanan filon, kiu estis jam jura doktoro. Kiam la doktoro estis mortonta frumatene, lia patro ordonis laŭtvoĉe al li, ke li iru al Kōya, sankta monto budaisma, kie lia intima amiko loĝas kiel bonzo. La mortonta doktoro kun jeso tuj starigis sin el la mortlito kaj falis kiel arbo kaj mortis. Post kelkaj horoj la patro ricevis telegramon de la amiko sur Kōya, kiu demandis, ĉu io okazis al lia filo. La patro sciigis lian morton per telegramo. La bonzo venis kaj rakontis, ke tiun matenon la mortinto vizitis lin. Li aŭdis grandan bruon de la pordo malfermata kaj vidis la doktoron. La bonzo volis fari demandon al li, sed la figuro tuj nevidebliĝis. La horo koincidas la tempopunkton de la subita stariĝo de la mortanto.

La mortinta doktoro Charles Richet, profesoro de fiziologio en la Universitato de Parizo kredis, ke la halucinacio realigata povas okazi. Halucinacio aperas sen instigo de sentorganoj, sed per senpera ekscito al la ĉeloj disvastigas unu specon de elektra ondo, kies longecon oni ankoraŭ ne certe scias. Se la cerbo ne vigle funkcias, ĝi povas ricevi la ondon kaj vibradi favore por aperigi la halucinacion konforman al la ricevita ondo. Kiam oni estas mortonta, la forto de la disvastigo povas esti tre intensa. Tial la disvastigo de mortontoj povas kaŭzi aperon de fantomo. Ankaŭ mi tion kredas. Rilate al fantomo de mortinto, mi ne povas kredi. Kvankam oni ofte parolas pri tia fenomeno, tamen tia estas tute ne kredebla de la scienca vidpunkto.

fantomo 幽靈
vagon'ekzamen'ej'o 檢車所
oficiala loĝejo 官舍
glit'ekrano 障子
kap'kuseno 枕
celuloid'kadraj okul'vitroj ロイド眼鏡(セルロイド緣の)
lit'kovr'il'o 掛布團
sub'inĝeniero 技手
filia 支所
plej'lasta el 終發の
kandidato 志願者
nacia kolegio 高等學校
ĉarpent'ist'o 大工
frosto'tremo 惡寒
hirt'iĝ'i (毛が)よだつ
bedaŭr'at'a 亡くなつた
lu'ig'i 賃貸する
vak'ant'a 空いてる
jura doktoro 法學博士
ne'vid'ebl'iĝ'i 見えなくなる
Charles Richet シャルル・リシェ
fiziologio 生理學
halucinacio 幻覺
sent'organo 感覺器官
sen'pera 直接の
ĉelo 細胞
fenomeno 現象
vid'punkto 見地

SONGOJ EN DEK NOKTOJ

de Sōseki NATUME

La unua nokto.

Jenan sonĝon mi sonĝis.

Sidante apud la lito kun krucigitaj brakoj mi aŭdas, ke la virino kuŝanta sur la dorso diras trankvile, ke ŝi jam mortos. Kovrante kapkusenon per sia longa hararo ŝi kuŝigas en ĝi sian ovalan vizaĝon kun milda konturo. Ŝia blanka vango havas modere varman nuancon de sango kaj ŝiaj lipoj estas kompreneble ruĝaj. Ŝajne ŝi neniel povas mortiĝi. Sed la virino per trankvila voĉo diris klare, ke ŝi jam mortos. Ĉe ŝiaj vortoj ankaŭ mi sentis, ke ŝi certe mortos. Do, de supre enrigardante, mi demandis ŝin: "Vere? Ĉu vi jam mortiĝos?" Respondante, ke ŝi vere mortiĝos, la virino larĝe malfermis siajn okulojn. La okuloj estas grandaj kaj glaceaj. Ĉirkaŭite de longaj okulharoj ili estas tute nigraj. En la fundo de tiuj ĉi nigraj pupiloj klare ŝvebas mia figuro.

Vidante la brilon de tiuj ĉi nigraj okuloj kvazaŭ travideblaj ĝis la fundo mi miris, ke eĉ en tia stato ŝi vere mortiĝos. Kaj, alproksimigante mian kapon ĝentile apud ŝian kapkusenon mi refoje demandis: "Vi ne mortiĝos? Certe vi ne mortiĝos?" Tiam la virino, kun siaj nigraj okuloj ankoraŭ dormeme malfermitaj, per trankvila voĉo ripetis: "Tamen mi vere mortiĝos. Estas neevitebla!"

Kiam mi demandis entuziasme, ĉu ŝi do povas vidi mian vizaĝon, ŝi kun rideto respondis: "Ĉu povas vidi? Kial ne! Jen ĝi speguliĝas." Mi silente retiris mian vizaĝon de ŝia kapkuseno. Mi, kun krucigitaj brakoj, ektimis, ke ŝi vole-nevole mortiĝos.

Baldaŭ ŝi aldone diris:

"Se mi mortiĝos, enterigu min — fosinte la teron per granda perlkonko! Kiel la tombosignon metu pecon de stelo falinta de la ĉielo. Kaj bonvole atendu apud mia tombo. Ĉar mi denove venos por vidi vin."

Mi demandis kiam ŝi venos por vidi min.

"La suno leviĝos. Kaj la suno malleviĝos. Ankoraŭfoje ĝi leviĝos kaj malleviĝos. — La ruĝa suno malleviĝos okcidenten veninte de la oriento, okcidenten veninte de la oriento, kaj — mia kara, ĉu vi povas atendi?"

Mi silente kapjesis. La virino laŭtigis sian trankvilan voĉon kaj decideme diris:

"Atendu cent jarojn!"

"Cent jarojn. Atendu apud mia tombo! — Mi certe venos por vidi vin."

Mi respondis simple, ke mi atendos. Intertempe, mia figuro ĝis tiam klare videbla en ŝiaj pupiloj ekfalis en nebulon. Kiel akvo, ekmoviĝante, rompas ĝis tiam spegulitan figuron, mia figuro komencis elfluiĝi. Tiam subite ŝiaj okuloj fermiĝis. De inter longaj okulharoj larmoj elfluiĝis sur vangon. — Jen ŝi estis mortinta.

Kaj mi iris en korton kaj fosis la teron per perlkonko. La perlkonko estis granda, glata kaj kun akra rando. Ĉiufoje kiam mi ŝovelis la teron, ĝia interna supraĵo briletis je la lunlumo. Odoris ankaŭ je la malseka tero. La fosaĵo estis baldaŭ preta. Mi kuŝigis la virinon en la fosaĵo. Kaj mi surkovris ŝin ĝentile per la mola tero. Ĉiufoje kiam mi surŝutis la teron, ree la interna supraĵo de la konko briletis je la lunlumo.

Kaj preninte pecon de falinta stelo, mi metis ĝin ĝentile sur la tombon. La peco de la stelo estis ronda. Mi supozis, ke ĝi fariĝis ronda forfrotite dum ĝi faladis longe tra la aero. Kiam mi levis ĝin en miaj brakoj, miaj brusto kaj manoj fariĝis iom varmaj.

Mi eksidis sur musko. Pensante, ke mi tiele atendas dum cent jaroj, mi rigardis kun krucigitaj brakoj la rondan tombosignon. Dume la suno leviĝis de la oriento kiel la virino diris. Ĝi estas granda kaj ruĝa. Baldaŭ ĝi malleviĝis en la okcidento ankaŭ kiel ŝi diris. Ĝi fiere malleviĝis — kun ankoraŭ ruĝa koloro. "Unu," mi kalkulis.

Baldaŭ la ruĝa suno ree majeste aperis kaj silente malaperis. "Du," mi denove kalkulis.

Tiel mi kalkulis kaj kalkulis, kaj mi estis jam necerta, kiom da fojoj mi vidis la ruĝan sunon. La ruĝa suno preterpasis super mia kapo tiom multe da fojoj, ke mi ne, tute ne, povas kalkuli. Tamen ankoraŭ cent jaroj ne pasis. Rigardante muskokovritan rondan ŝtonon, fine mi eĉ komencis suspekti, ĉu mi estus trompita de la virino.

Kaj tiam de sub la ŝtono komencis sin etendi verda trunketo oblikve antaŭ miajn okulojn. Ĝi kreskis en momento kaj atinginte mian bruston ĝi ĉesis sin etendi. En la sama momento ĉe la pinto de la longa balancanta trunketo, maldika kliniĝinta burĝono disvolviĝis pufe en florfoliojn. Profunde parfumis la blanka lilio ĉe mia nazo. Tiam el la ĉielo falis roso sur la floron kiu ŝanceliĝis per sia propra pezo. Kliniĝante mi kisis la blankajn florfoliojn, el kiuj malvarmaj rosoj gutas. Kiam mi retiris mian vizaĝon de la lilio mi subite ekrimarkis la solan tagiĝan stelon brilantan sur la malproksima ĉielo.

"Cent jaroj jam pasis," tiam mi la unuan fojon ekrimarkis.

Trad. de Eskulapida Klubo.

小坂狷二

諺集解義

4

45.—(a) Ĉerpi akvon per kribrilo. (b) Batadi la venton. (c) Melki kaproviron. (ĉ) Kalkuli muŝojn. (d) Tordi ŝnurojn el sablo. (e) Verŝi aeron al aero.

(a) 篩で水を汲む(甲斐ないことをする)。(b) 風と喧嘩をする(なぐりつゞける:のれんと腕押し)。(c) 牡山羊の乳を絞る(不可能なことを試みる)。(ĉ) 蒼蠅を數える(不可能な努力)。(d) 砂で繩をなう。(e) 空氣を注いで空氣に加える(無駄な努力)。

【註】 (a) Kribri (砂, 粉などを) 篩う, kribrilo 篩; filtr'ilo 水漉し, 味噲こし; rasp'-lo わさび (大根) おろし。(c) Melki (bovinon) (牝牛の) 乳をしぼる。禽獸は男女性の區別がつきやすく又日常必要上區別して用いているものもあるが (bovo 牡牛, bovino 牝牛; koko 牡鷄, kokino 牝鷄), 多くは區別がつけにくゝ, 又日常區別する必要もないから牡牝の區別なく用いる (baleno 鯨, gruo 鶴, rato 鼠など)。然し男女性を特に區別したい場合には -viro (牡), -ino (牝) を付ける: aproviro 牡猪, aprino 牝猪。(d) tordi 捩る, tordi ŝnurojn 繩をよる, ŝpini fadenon 糸をつむぐ, plekti korbon 籠を編む (此等は繩そのものをよる意ではなく材料をよつて繩を作る意。そして材料は el... で示す)。(e) verŝi (akvon) en (glason) (水) を (コップ) に注ぐ (本文は空氣を注いで空氣に『加える, 注ぎ足す』意で al)。

46.—(a) Troa petolo danĝera al kolo. (b) Rido matene—ploro vespere. (c) Tro da libero kondukas al mizero. (ĉ) Tro saltas la rato—ĝin kaptas la kato. (d) Se birdo tro bekas, la katon ĝi vekas.

(a) あまりいたずら(おてんば)が過ぎると頸をへし折る(頸に危險)。(b) 晨に笑, 夕に涙(樂のあとには惱)。(c) 自由(放埒)がすぎると困窮に陥る(あまりな自由は困窮に導く)。(ĉ) 鼠があまりはね過ぎると之を猫が捕える(いゝ氣になり過ぎるとひどい目にあう)。(d) 鳥があまり囀えずり過ぎると猫を呼び醒す(禍をまねく)。

【註】 (a, c) Tro'a=tro da... あまり(多)過ぎた…… (d) beko (鳥の) 嘴 (獸の buŝo に當るもの故單數: 比較: 唇 lipoj); beki (ア) 嘴でつゝく, ついばむ; (イ) 囀る, (= pepi, kanti).

47.—(a) Oni tondas ŝafinojn, tremas la ŝafoj. (b) Por Paŭlo sperto—por Petro averto. (c) Al hundo bastono —al hom' leciono.

(a) 牝羊の毛を刈ると牡羊がふるえる(甲へのお仕置きは乙への見せしめとなる)。(b) 太郎には體驗(で事足りるが), 次郎には警告(を喰はせねばきゝめがない)。(c) 犬には棍棒, 人には訓誡(人を見て法をとけ)。

48.—(a) Kia reganto, tia servanto. (b) Kia paroĥestro, tia paroĥo. (c) Kia drapo, tia vesto.

(a) 此の支配者にしてこの部下あり。(b) この牧師(教區管長の牧師)にしてこの教區。(c) この羅紗にしてこの服。

【註】 此等は流石は名支配者であればこそこの良部下ありと云うよい意と，支配者が悪いから部下もだめと云う悪い意とどちらにもとれる。Kia . . . , tia —： 29〔註〕參照。

49.—Kio mia, tio bona.

自分のものである（その）ものは善い（我が物と思えば輕し笠の雪）。

50.—Eminenta ŝuldanto—malbona paganto.

堂々たる借用者は悪い支拂者（金を借りるときは堂々たるものだが支拂となると詭り勝ち：借る時の地藏顔返すときの閻魔顔）。

51.—(a) Ofta festo—malpiena kesto. (b) Imiti grandsinjoron—perdi baldaŭ la oron. (c) Ĉe vesto velura suferas stomako. (ĉ) De rigardo tro alta malsaniĝas okulo. (d) Vivo sen modero kondukas al mizero. (e) Vivu stomako laŭ stato de l' sako. (f) Ne vivu kiel vi volas, vivu kiel vi povas. (g) Estu ĉapo laŭ la kapo.

(a) 祝い事屢々なれば金庫はからになる。(b) 大盡を眞似てやがて金を失う。(c) ビロードの衣服はまとう人の胃袋が苦しむ。(ĉ) あまり上ばかり見すぎると眼が悪くなる。(d) 節制なき生活は困窮に導く。(e) 胃袋は財布の狀態に應じて生活せよ（不相應に美食するな）。(f) 欲するがまゝに生活するな，やつてゆける如き生活をせよ。(g) 頭巾は頭に合つた頭巾であれ（物事は身分相應せよ）。

【註】 (c) この ĉe は所在，所屬を示す：『(何，誰）の處では，に在りては』*Ĉe* botisto la ŝuo estas ĉiam kun truo 靴屋の（處では）靴はいつも穴があいている（『紺屋の白袴』に當る諺）。(ĉ) de の用法：34〔註〕參照。(d) modera（極端に走らず）程よき，中庸を得たる，適度の，控え目の，節制せられたる，（意見など）穩健な。

52.—(a) Ne longe sinjora daŭras favoro. (b) Sinjoro karesas, sed baldaŭ ĉesas.

(a) 殿御の恩寵は永くはつゞかぬ。(b) 殿御はかわいがる，然しじきにやめる（男心と秋の空）。

【註】 (a) 散文で書けば Ne longe daŭras sinjora favoro. であるが平仄を — / — — / —, / — — / — とするため語序をかえたもの。Sinj*ora* と fav*oro* とで脚韻をふんでいる（但し語尾母音 a, o は類似母音で間に合わせたもの。類例：Ne ĉio brilant*a* estas diamant*o*）。(b) ĉesi『しなくなる』なる意の自動詞（halti『(歩みを）とめる，停止する』などと類語）。然し日本語では『(何々するのを）やめる』と他動詞の如く譯さるゝことあり：La pluvo *ĉesis.*＝*Ĉesis* pluvi. 雨が止んだ（ふらなくなつた）。La infanoj *ĉesis* kanti. 子供達は歌うのをやめた（歌わなくなつた）〔比較〕Ĉesigu la kantadon. 歌うのをやめさせろ（他動詞）。La paŝtisteto haltis kanti.＝haltis en kantado 歌をとめた（とぎらした）。

53.—(a) Ĉiu havas sian propran guston. (b) Ĉiu barono havas sian kapricon.

(a) 人には誰でも夫々（自分固有の）趣味がある。(b) 殿樣（男爵）には皆夫々の氣まぐれがある（人には皆癖がある）。

【註】 相關詞 ĉi- 類が sia を伴うときは『夫々特有な，夫々の (propra)』の意が含まれる。なお ĉi- を伴わずしても『夫々の』の特別な意味を含ませるため sia を用いることが多い。此の用法は日本人は注意して學ぶ必要がある。例：

Italujo ankaŭ havas grandajn homojn.
イタリーにも偉人がある。

Italujo ankaŭ havas siajn grandajn homojn. イタリーにもイタリーとしての偉人がある。

Ŝi diris Patronian. 彼女は『天に在します我等の父よ』のお禱をさゝげた。

Ŝi diris sian Patronian. 彼女はいつも云う『天に在します我等の父よ』のお禱をさゝげた（„Patronia“ は „Patro nia, kiu estas en la ĉielo, . . . で始まる朝夕のお禱の文句）。

La knabo iris la vojon. 少年はその道を行つた。

La knabo iris sian vojon. 少年は來た道（自分の行く道）をつゞけて行つた。

54.—Ĉiu tajloro havas sian tranĉmanieron.

仕立屋には夫々（特有）の裁ち癖あり（人々の流儀や癖は夫々ちがう）。

55.—(a) Akiro kaj perdo rajdas duope. (b) Enspezo postulas elspezon. (c) Tempo prenas, tempo pagas. (ĉ) Hodiaŭ supre, morgaŭ malsupre. (d) Kiel akirite, tiel perdite.

(a) もうけと損とは道連れでゆく（得る處あれば損する時もある）。(b) 收入は支出を要求する（一方金が入れば必ず一方には出ねばならぬ）。(c) 時は取り立てるが，又時は支拂つてくれる（取られる時もあれば貰う時もある）。(ĉ) 今日は上，明日は下（興亡は世の常）。(d) 手に入れ方が手に入れ方なら，（それと同じざまで）失いようも失い樣（悪錢身につかず）。

56.—(a) Pli bona io, ol nenio. (b) Pli bone malmulte gajni, ol multe perdi. (c) De ŝafo senlana eĉ lanero taŭgas.

(a) 何か（つまらぬものでも）ある方が何もないよりましだ〔18 (b) と同じ〕。(b) 得る處小の方が失う處大よりもましだ。(c) 毛の無い羊からでは羊毛一本でも（とれればそれで）結構。

【註】(c) haro（髮の毛）は普通名詞で haro は毛髮一本；二本以上は haroj；lano（羊毛）は物質名詞で何萬本でも單數形 lano；依て羊毛一本は lan'ero.（arbo は普通名詞で arbo, arboj；herbo は物質名詞で澤山でも單數形。草一株，二株は unu tufo da herbo, du tufoj da herbo）。

57.—(a) Bona gloro pli valoras ol oro.

榮譽（正當なる光榮）は黄金よりも値打ちあり。

58.—Esti sub la ŝuo (de sia edzino).
（女房の）尻に敷かれている。

59.—(a) Inter la blinduloj reĝas la strabuloj. (b) Se homoj mankas, infano ankaŭ estas homo. (c) Se forestas suno, sufiĉas la luno. (ĉ) El la mizero oni devas fari virton. (d) Mieno fiera al ludo mizera.

(a) 盲人の中に居ればやぶにらみも王者たり（鳥なき里の蝙蝠）。(b) 人間が居らぬ場合は赤子でも人間樣。(c) 太陽が居らぬ場合には月で間に合う。(ĉ) 困惑よりも德を作り出さねばならぬ（負け惜みにでも困窮を轉じて德を作る要あり：武士は食はねど高楊子）。(d) みじめな演出に得意そうな顔付（せめて負惜みの得々顔）。

【註】(ĉ, d) mizero（此の上もなく）不幸な身の上，哀れ憫然な境遇，生き甲斐もない難澁，困窮；mizera 哀れ憫然な，みじめな（生活，成績，御馳走など）。(d) El la neceseco

oni devas fari virton（必要から止むを得ず善行をする：牛にひかれて善光寺詣り）とも云う。なお Malriĉeco povas iri kune kun fiereco.（Marta p. 69）は『武士は食はねど高楊子』に近い。

60.—(a) Laŭdu belecon de l' maro, sed ĉe rando de arbaro. (b) Laŭdu la maron, sed restu sur tero.

(a) 海の美をほめたたえるもよし，然し森のはづれで(陸上で)たゝえよ。(b) 海をほめたゝえるもよいが，陸上に居れ(美しくとも海へ出れば溺れることあり：君子は危に近よらず)。

【註】—u, sed . . . u ——するもよいが然し……にして置け；—u, kaj . . . ——せよ，そうすれば……になる。

61.—(a) En malfacila horo eĉ groŝ' estas valoro. (b) Gardu kandelon por la nokto. (c) Groŝo ŝparita neniam perdiĝas. (ĉ) Ŝparu kiam bone, vi havos kiam bezone.

(a) 困つた時には一文錢でも値打（あるもの)だ。(b) 蠟燭でも大切にして置け夜の役に立つ。(c) 貯畜したびた錢は失わるることなし。(ĉ) 都合のよい時に貯畜せよ，そうすれば入要の場合に金があることになる。

62.—Danĝera estas bovo antaŭe, ĉevalo malantaŭe, kaj malsaĝulo de ĉiuj flankoj.

牛は（角で突くから）前が危險，馬は（蹴るから）後ろが危險，馬鹿はどつち側からも(四方八方)危險(馬鹿ほどこわいものはなし)。

【註】Flanko に付く前置詞は『どちら側に面して，どちらの側に在る』の意の時は sur；『どちらの方面から見れば』の意の時は de；『どの方面へ』は en（目的格付)；『(身體などの）脇に，脇腹に』の意の時は ĉe.

63.—(a) Ŝparu groŝon—vi havos plenan poŝon. (b) Kiu groŝon ne respektas, riĉecon ne kolektas. (c) Riĉigas ne enspezo, sed prudenta elspezo. (ĉ) Kiu groŝon ne honoras eĉ duongroŝon ne valoras.

(a) 一文を節約せよ，然らば懷中は滿ち滿たん。(b) 一文錢を尊敬せざる者は富貴を集め得ず。(c) 人を富ますは收入に非ずして，思慮深い支出。(ĉ) 一文錢を大切と思わぬ者は半文の値打もなし。

64.—(a) Singardeman Dio gardas. (b) Kiu sin gardas, tiu sin savas. (c) Gardatan ŝafon eĉ lupo timas. (ĉ) Ne konante la profundecon, ne iru en la riveron.

(a) 用心深い者を神は守る。(b) 身の用心をする者は身を救う。(c) 守られてる羊を狼さえも怖れる。(ĉ) 深さを知らずして河に入るな。

【正誤】一月號 15 頁右欄 14 行：fronto は frunto の；16 頁右欄 16 行『布』は『希』の；三月號 109 頁左欄 1 行『後に立つ』は『役に立つ』の；同右下より 3 行『チャホ』は『チャヤホ』の；110 頁左 8 行 fonto は honto の誤。

三宅史平

動詞 つづき

ただしい文章の作りかた

4

13

接續詞でむすばれた文

まえの章のおわりに,

文が成りたつには,かならず,完全體の動詞のあることが必要である。

とゆうことを書きました。

このことは,たれにもわかりきつているように,一應は,おもわれますが,實際問題にあたつてみますと,案外,そうでないことがわかります。和文エス譯の答案など見ておりますと,文章が,單純であるときには,なんでもありませんが,すこし複雜になつて來ると,この點であやまつたのがかなりたくさんあります。

それは,どんなばあいであるかといいますと,文章が接續詞,もしくは關係代名詞でむすばれているばあいのことであります。

接續詞については,§6に書いてあることをおもいだしましよう。それは,

接續詞とは……單語と單語,句と句,文と文とをつなぐ役目をもつ助辭であります。

とゆうのであります。そして,そのうちのkajについてのべましたが,それの說明のうちに,これをさしはさむものは,

文法的役割において,おなじ性質のものでなければなりません。……文と文と,句と句と,單語と單語とゆうように。

ともうしました。

このことは,いずれの接續詞にもあてはまることであります。ただ,ある接續詞は,文と文と,句と句と,單語と單語とをむすぶ,いずれのばあいにももちいられますが(たとえばkaj),あるものは,文と文とをむすぶばあいにだけもちいるとゆうちがいがあります。

そのひとつにkeとゆうのがあります。

keでつなぐ文章についてくわしくのべるには,まえもつて說明しておかなければならないことがいくつかありますから,くわしい說明はあとにまわして,ここには,例をひとつあげて,簡單に說明するにとどめましよう。

彼は學校へ行くともうしました。

これをエスペラント譯させると,つぎのように書くひとがあります。

Li diris, ke iri al la lernejo.

これは,あきらかなあやまりであります。なぜならば,うえにいつたように,

1. keは接續詞であり,接續詞がつなぐのは,文と文と(句と句と,單語と單語と)でなければならない,
2. 文が成りたつには,かならず,完全體の動詞が必要である,

ところが,うえの譯文でiriは完全體でないから,ke以下は文をなしていない。

それゆえ,これをただしい文章にするには,iriを完全體(すなわち,現在,過去,未來をあらわす直說法,あるいは假定法,または命令法)になおさなければなりません。

すると,ここに「行く」とゆうのは,「これから行く」とゆう意味でありましようから,直接法の未來形をとらなければなりません。しかし,それをかえて,

Li diris, ke iros al la lernejo.

としたのでは,まだ不十分であります。

それは,§10, §11でもうしましたように,その述部が命令法,あるいは天候に關する動詞,いわゆる「無主動詞」であるばあいのほかは,文には主部が必要である,とゆうことであります。

ここでは,主部(すなわちirosとゆう行動をする主體)は,なんでありましようか。日本語の原文には出ておりませんが,それは「學

校へ行く」といつた「彼」そのひとであります。

そこで，

Li diris, ke li iros al la lernejo.

とします。これでよいのであります。

これを例によつて，主部と述部とにわけますと，

	主部	述部	
ke	Li	diris	a
	li	iros al la lernejo	b

となります。つまり，ke は a の文と b の文とをつなぐ役割をつとめるだけで，主部にも述部にも屬しておりません。

なお，この例文の飜譯には，もつとやつかいな問題もふくまれておりますが，それは，もつとのちに，とりあげることにします。

14

關係詞でむすばれた文

つぎに，關係詞についてであります。關係詞には，關係代名詞（kiu, kio），關係形容詞（kia），關係副詞（kie, kiom など）などがありますが，それの役割は，簡單にいえば，一方の文にふくまれている名詞もしくは形容詞，副詞を，あるいは，一方の文そのものを，他の文のなかにあつて，代表し，かつ，同時に，そのふたつの文をつなぎあわせるものであります。てつとりばやくいえば，關係詞の役割は接續詞と名詞，あるいは形容詞，または副詞とをあわせたようなものであります。

たとえば，

關係代名詞＝接續詞＋代名詞
關係形容詞＝接續詞＋形容詞
關係副詞＝接續詞＋副詞

といつたような役割であります。

では，つぎの例文を譯してみましよう。

1. 彼は，昨日横濱へ着いたアメリカ人です。
2. それはまれに見る美しい花でした。
3. これは，ザメンホフの生れた家です。

1. Li estas usonano, kiu alvenis al Yokohama hieraŭ.
2. Ĝi estis bela floro, kian oni vidas malofte.
3. Tio ĉi estas la domo, kie naskiĝis D-ro Zamenhof.

1. では，kiu は usonano を代表して，それ以下の文の主部になつております。

2. では，kia は，bela を代表して，それ以下の文の目的語になつております。これは，形容詞の役割をつとめているのでありますから，本來ならば，それの形容される名詞（すなわち，ここでは，floro）が，そのあとへつくべきでありますが，これはつけなくてもわかるので，省略されるのが普通であります。

3. では，kie は la domo を代表して，それ以下の文の補足語になつております。ここに注意すべきことは，關係副詞であるが，これが domo とゆう名詞を代表しているとゆうことであります。くわしい說明は，別の機會にゆずりますが，domo とか urbo とかいつたような名詞が，それだけで直接に場所をしめしているばあいは，それを kie が代表します。

そこで，うえの例文を，主部と述部とにわけますと，

	主部	述部
1.	Li	estas usonano
	kiu	alvenis al Yokohama hieraŭ
2.	Ĝi	estas floro
		kian
	oni	vidas malofte
3.	Tio ĉi	estas la domo
		kie naskiĝis
	D-ro Zamenhof	

となります。

15

不完全體の役割

文が成りたつには，かならず完全體の動詞が必要である，とゆうことについては，うえの例によつておわかりになつたとおもいます。さて，うえにのべました，接續詞や關係詞でつながれた文については，もつとくわしく說明しなければならないのでありますが，それは，あとにまわして，ここには，もとにもどつて，動詞の不完全體（不定法）の役割についてのべましよう。

不定法（infinitivo）とは，「限定のない用い方」とゆう意味で，これに對應する言葉はfinitivo（この言葉はあまり使われておりませんから，difinita modo といつてもよろしいでしよう）で，「限定法」とでもいえばよいわけであります。そして，單語として，これをとりあつかうばあいには，「不定法」，「限定法」とゆう術語が便利でありますが，文章全體のたちばから，それの構成分子として，これをとりあつかうばあいには，「不完全體」，「完全體」とでもいつたほうが理解しやすくおもわれますので，こうした言葉を用いたのであります。要するに，術語の定義を機械的におぼえていただくことが目的でなく，術語は，すべて，說明の道具とみて，文章をただしく書く術を學びとるとゆうことを，どこまでも目的としていただきたいことを，ここにくりかえしておきます。

不完全體は，動詞でありながら，獨立には動詞の役目を完全にはたすことができませんが，一方，その不定法とゆう名まえどうり，法とか時とかいつたものの束縛を受けないで，その動詞のもつ純粹の概念をあらわしてもおります。たとえば，iras とか iris とかいいますと，現在「行くところである」とか，過去に「行つた」とかのように，「時」の制限を受けますし，また iru といえば，「行け」とゆう命令をあらわして，「法」の限定を受けます。このことは，同時に，それゆが，それぞれ，現實的な概念を完全にいいあらわしているとも考えられます。

ところが，iri ともうしますと，「行く」とゆう意味が概念的にはわかりますが，それは，どこまでも抽象的なものであつて，具體的な形をもつては，われわれの想像のなかに浮んで來ません。「時」をもあらわさなければ，きまつた「法」をもあらわさない。

したがつて，これは，その行動をする主體をなす言葉（主語 ── 文章のなかでの役割は主部）をともなわないのが普通であります。主語をともなえば，その行動は，具體的な形をとつて，「時」や「法」の觀念がおき，當然完全體の動詞が必要となつてくるからであります。

そこで，不完全體は，どうゆうばあいに使われるかとゆうと，だいたい，つぎのようなばあいにであります。

1）動詞のあらわす純粹の概念が，文の主語，目的語，あるいは補足語として用いられるとき。（名詞とおなじ役割）。

2）動詞のあらわす純粹の概念が，名詞の意味を限定するとき。（形容詞の役割）。

3）他の完全體または，不完全體の動詞の意味を限定するとき。（副詞の役割）。

4）これは 3）あるいは 1）のうちへふくまれると考えてもよいのでありますが，他の完全體のたすけをかりて，特殊の「法」をあらわす。

言葉のうえでは面倒でありますが，例をあげれば簡單であります。

1）a	Morti estas terure.	主　語	名詞的
b	Mi amas kanti.	目的語	
c	Mi vizitas vin por gratuli.	補足語	
2）	Mi vidis lin fali.	形容詞的	
3）	Mi venis vidi vin.	副詞的	
4）	Mi povas paroli esperante.		

1）a「死ぬる（こと）はおそろしい」の「死ぬる」は動詞のまゝ，名詞のように主語となつていますが，動詞にちがいはないのでありますから，それを修飾する terure は，副詞でなければならないわけであります。

b「私は歌うことをこのむ」も，kanti は，文章での役目は目的語でも，動詞でありますから，形を目的格（-n）にはいたしません。

リングヴォイ レスポンドイ

■質問は要點を簡單明瞭に！
■書名，版數，ペイジ，行數などをはつきり書くこと。
■回答者を指定してよい。ただし，必ずしも，編輯部がその要求に從うとは限らない。

1. 二名詞に附く形容詞の數

問

エス捷徑 p. 29 (13) Unue mi lernis Esperanton, due anglan (lingvon) kaj trie francan lingvon とある（ ）のなかを略せば最後の lingvon は複數にすべきではないでしようか。

答　小坂猾二

單數のまゝでよろしい。

複數名詞につける形容詞は複數形——これに對しては何人も異論はない：

(a) Mi vidis vian fraton.
(b) Mi vidis viajn fratojn.

これは云わんとする名詞が複數であることが既に話者の頭の中にあることであるからそれにつける形容詞も自然始めから複數觀念として頭の中から出て來る。然るに二の單數名詞に形容詞をつける場合には單數を用いる人と複數を使う人と二た通ある。

(c) Miaj frato kaj fratino estas la bogefratoj de mia edzino.
(ĉ) Mia frato kaj fratino estas la bogefratoj de mia edzino.

私の兄(弟)と姉(妹)とは私の妻の義理のきようだいである。

(c) は frato と fratino の各々は單數であるが兩者しめて2人，依て『理論上』之につける形容詞は複數形にせねばならぬと云うのであつて理論を主とする初等教科書にはたいていそう書いてある。

(ĉ) は口を切る瞬間話者の頭に浮ぶ名詞は frato と云ふ單數名詞である。從つて口を出る言葉としては先づ Mia frato... であつて次に之に mia fratino がつゞくわけであるが mia は既に云つたから之を略して ...kaj fratino... とつゞけるのが『心理上』自然な云い方である。

實は上記二例の (c) は Fundamento de Esp. 採錄の Ekzercaro §36 に，(ĉ) は Fund. Krestomatio の p. 14 に出ている同じ例である。そして前者は初版には mia とあつたのを再版のとき校正に當つた佛國の Esp. 理論文法家が之を miaj と紙型を造眼訂正した痕跡がのこされている（造眼の活字が異形であるので明瞭にわかる）。Krestomatio の方は該理論家の手が及ばなくなつた後年發行されたもの故原著のまゝ mia となつている。他の諸著作に於ける Zamenhof の例は (ĉ) 形式であることは本誌 1933 年 1 月號以下に佐々城岩下兩氏の詳細な統計說明で明にされている。例：

Forsavis sian korpon kaj animon. (Proverbaro, 210) 命からがら逃げうせた。

Laŭ la socia situacio kaj cirkonstancoj ni estis taŭgaj unu por la alia. (Fabeloj, III, p. 24) 社會上の地位から云つても境遇から見ても吾々は似合い者であつた。

尤も一度口から出れば，あとから之を受ける場合には當然既に複數の觀念となる：

Ilia teniĝo kaj moviĝado estis tro reĝaj. (Fab., I, p. 72) 彼等の態度ものごしは下賤のけがない。

La klereco en tiu mezuro kaj formo, en kiuj Marta ĝin posedis, vekis dezirojn, donante nenion, kio povus akiri kontentigon por ili. Marta, p. 132) 敎養と云うものもマルタが身につけている程度や形式ではたゞ意慾を引き起すだけでその意慾に滿足をあがなつてやれるものは何等與えて吳れないのである。

理論を主とする Esp. としては (c) の 1+1=2 と云う數學的な云い方は勿論正しいので誤とは云えぬが，人間が使う實際の言語としては心理的に理由のある (ĉ) の用法が自然である。私自身の經驗では考え考え物を書く場合には (c) の形式に書けるが日常しやべる

場合には（c）は甚だ苦痛で，（ĉ）の形式でしやべつている樣である。結局どちらの形式でもよいとすべきものと思う。實際の場合この兩樣の形式のために誤解が起る惧はない。例えば『美しいバラ』と（別に美しいと云う程でもない）『百合』とを並べて Bela rozo kaj lilio . . . としては區別がつかぬなど云うのは屁理屈でそれはそう簡單に云つて區別しようと云うのが無理。普通の云い方では Bela rozo kaj nebela (aŭ ordinara) lilio . . . などと補足して云うか，Lilio kaj tre bela rozo . . . と云うかする處である。

扨，本質問の場合は due . . ., kaj trie . . . と全く意味が切れている場合であるからどちらからの見方でも lingvojn と複數にする必要のない場合である。

2　合成語の發音

問

Samideano は普通「サミデアーノ」と發音しているようですが

urbestro は　ウルベーストロ
eniri は　エニーリ
forestas は　フォレスタス
malamiko は　マらミーコ
ŝipestro は　シペーストロ
で差支えないでしょうか。

答　　進藤靜太郎

此の問題の詳しい理論的研究は岡本好次氏著「エスペラント發音研究」就中第 V 章の "Pri Silabado" を御覽下さい。同書は六號活字ベタ組の一寸と讀みにくい本ですが，その內容は發音學の根底を明かにし，諸權威の說を引用して餘すところなく，決論も妥當で眞に Esp. 界のみならず廣く我國語學界に其の類を見ざる好著であります。

理論は同書に既に盡されてありますから，私は此處で自分の經驗に基いて，初學者の指導上私が特に念を入れている點を蛇足ながらお答します。

極端に狹い意味での發音練習を除いたならば，學習と雖も實地使用上の意義を忘却した發音は考えられません。卽ち parolanto 自身がよく解つている事，aŭskultantoj に解る事，この二つが必要です。

從つて〔サミデアーノ〕と云つて sam-ide-an-o の意味がすぐ解るのと同樣に〔ウルベーストロ〕と云つて，云う自分は勿論，聞手も urb-estro と解れば，それで差支ない理です。

ところで，samideano を便宜上 サーミーデーアーノ の五つの假名文字で表しても，五つの假名に相當する五音がばらばらに發音されるのでもなく，又その結合の具合が造語上の意味を無視して〔サ＝ミデアーノ〕としては異樣なのと同樣に，urbestro を〔ウル＝ベーストロ〕; eniri を〔エ＝ニーリ〕; forestas を〔フォ＝レスタス〕; malamiko を〔マ＝ラミーコ〕; ŝipestro を〔シ＝ペーストロ〕と發音しては良い發音と云えません。

sam' の m と ide' の i と云う風に結合され易い音がこの場合の樣な造語の結果隣り合つた爲に，自然と融け合うと云う「呼吸」をよく呑込まねばなりません。

猶その融合の度合にも，それぞれの結合自からの素質や，その造語そのものゝ Esp. に於ける intimeco, 更に造語各分子の活用性等によつて，自ら疎密の差があります。

卽ち samideano, eniri, malamiko に比較すれば urbestro, forestas, ŝipestro は大體に於て疎である。

更に同じ urbestro にしても "Ĉu li estas urbestro aŭ vilaĝestro?" の場合と Tio estas portreto de Urbestro A. の場合とでは又差異がつく。

こう云う呼吸と云うものは付燒刄的練習では決して出來ません。合唱や能の地謡の「間合」の樣に相當の修練を積んで出來た素地が實際に當つて自らその場合に適合した呼吸を生むものです。

そこで，自信のある指導者としては，その素地によつて模範的發音を聽かせて被指導者の耳を訓練すると共に，その發音矯正に當つては矢張り

urb-estro
en-iri
for-estas

mal-amiko
ŝip-estro

と造語の所以を充分嚙みしめて，誰にでもよく分る根本的な發音を先ず正確に教える事が肝心である。

そして，學習者の Esp. en tuto に於ける上達と共に——その間には撓まざる自習や會話の練習は勿論の事，眞劒勝負とも云うべき實地の經驗の結果——單語の發音と云うよりは，全般的言辭の措辭抑揚の自成の裡に自らその體を成すよう心掛くべきであろう。

3. 成句のばあい

問

長野縣 小笠原敏雄

Per forto de la volo (Marta p. 209, ↑61) において forto の前に la が來てもいゝのではないでしようか。また Per la forto と Per forto とでは意味が大變違つて來ますか。

答

川崎直一

全文をあげると Per forto de la volo ŝi rekaptis la forglitantan memkonscion kaj donis al la juvelisto la ringon.

質問を受けた場合解答者はどうす　かとゆうと，問題がすでに十分自分で研究ずみのことであれば，十分すぐ答えることができるがまだ充分研究していないことであれば研究してから答えねばならぬ。いま私に與えられた問題は實は十分研究していないものであるが，しかしかなり興味と關心を持つて多少は考えたこともあることである。期限切迫の雜誌上の解答として，いますぐ書けるのはつぎのとうりである。

(1) 私の考えでは，あるいは私の趣味ではこんな場合は一種の成句とみたい。すなわち一般的意味を持つたもの，いいかえれば，この ŝi のかぎられた forto にかぎらない，さらにいいかえれば per forto de＝per とみたいのです。

(2) それでは Marta 中に Zam. は他の箇所でもこれと同じ使いかたをしているかどうか？ 幸い城戸崎益敏氏の完全に蒐錄された Konkordanco de Marta (近刊, OES-Biblioteko の一篇として) を利用してみる。per forto de はみあたらない。前置詞の違つたもの，例えば Tiu guto falis en la profundon de ŝia brusto *kun forto de* narkotaĵo, kiu streĉas la nervojn, blindigas la penson, surdigas la konsciencon.—228–14.

(3) もちろん la のある場合は Marta にもたくさんあります。例えば Sed la virino, kiu staris antaŭ ŝi, alforĝis ŝin al la loko *per la forto de* sia rigardo—176–14. 參考までに per la forto de の他の例を示すと：9–31, 57–16, 57–19, 75–30 です。さて重大問題は la があつたら特殊にきまるかどうか，一般の場合もありうるのではないかであります。

(4) 今度は forto でなく，他の名詞の例ですが，これをやつていては數ヶ月かかつても全部の調査ができないかもしれませんのでほんのわずか。Por ĉia malbono estas necesa ia helpa rimedo; tiuj kaj aliaj vidas ĝin en tio aŭ alia, sed la malsano ne cedas *per helpo de* la recepto—Marta, 1–4. Mi petas, ke ankaŭ tiun ĉi artikoleton la presisto pretigu por mi *en formo de* apartaj depresoj (1000 ekzempleroj), kiujn mi intencas enmeti en ĉiun ekzempleron de la broŝureto pri la dogmoj—Originala Verkaro, 552–13. なお Ekzercaro では en la daŭro de XXV 25; per helpo de XXX 9, XXXIV 13 があります。

(5) Esp. の文法書でこの問題をとりあつかつたのを私は知りません。

(6) Marta の原文はポーランド語で，この原本もいま手もとにあるのですが，これはこの問題には役にたちません。なぜならポーランド語には冠詞は存在しないからです。だから Esp. 文の Marta の冠詞の用法は Zamenhof の Esp. についての lingvosento によつて行われているものです。

(7) 參考としてヨーロッパの近代語，すなわち英語，フランス語，ドイツ語などでの用法も調べたらよいのですが，いまは省略さしていただきます。

POMPEJO, FRATO MIA!

El "CEZARO"

1. Unue aperas du rajdistoj: galloj. Ili galopegas. Krucsagas la ŝoseon. Forflankiĝas sur kampvojojn. Venas returne. Surgrimpas altaĵon. Okulspionas ĉiuflanken. Rapidas malsupren sur siaj graciaj, elastaj ĉevaloj. Jam plue!

2. Duonmejlon post ili venas pli granda trupo: germanoj. La trotado de iliaj pezaj, fortikaj ĉevaloj estas iom malpli rapida ol la facila fluga paŝo de l' delikataj gallaj bestoj. Sed ĉar la rajdistoj krociĝas al la ŝoseo, okulante nur dekstren-maldekstren, ili progresas antaŭen same rapide, kiel la facilmovaj esploristoj.

3. Tuj post iliaj kalkanoj, nur tiom fore, ke la levita polvonubo povas forbloviĝi, rajdas la ĉeftrupo. Tute ĉepinte, en sia ruĝa mantelo—sole laŭ ĝi povus lin rekoni la tuta mondo—jen la imperatoro mem. Malstreĉinte la bridojn por liberigi la kapon de la ĉevalo, li—laŭkutime—sin klinas antaŭen kaj elpuŝas la muskolstreĉan vizaĝon, kvazaŭ tiuj du-tri coloj, kiujn li tiel forrabas de l' vojo, havus apartan gravecon por la atingo de la celo.

4. Cezaro rajdas por atingi la forkurintan Pompejon.

5. En selo, kiun li de tiam ne forlasis, li akceptis la kapitulacon de la senat-armeo, disbatita, ĉirkaŭfermita, fortranĉita de vojo kaj akvo. La sinsekvajn ordonojn li donis en plurajdo: la tuta kavalerio iros kun li, la sesa legio plej rapide postsekvos. La pompejanojn oni dividu en legiojn. Tri el ili formarŝu sub Domicio en Malgrandan Azion, kie reĝetoj klopodas elprofiti la malpacojn inter la potencaj gigantoj. El la unu legio kaj duono antaŭ Ateno,

ゴール人。疾驅する
車道。それる
よじ登る。うかがう
彈力ある
速步
目をくばる
前進する
身輕な。斥候
踵
砂煙。先頭に
皇帝。ゆるめて。轡
例によつて
筋ばつた
ケーザル。ポンペウス
鞍
降服。元老院軍
つづけさまの
騎兵隊
軍團
乘じる

CEZARO, verkita de M. Jelušić, esperantigita de I. Rotkvić, eld. de Literatura Mondo, 1934.

unu tuj marŝu al Rodo. La illiriajn garnizonojn oni plifortigu per dekkvin kohortoj el Italio, Gabinio transprenu la estrecon. La ĉefparto de l' farzalaj trupoj iru en Kampanion por refreŝiĝo.—Kaj oni ne forgesu: sur la batalkampo oni devas starigi monumenton al Krastino, same la tombon kaj venk-emblemojn! Li tion elmeritis pli ol iu alia!

6. Antonio, rajdante apud Cezaro, pacience aŭskultas tiun ordonhajlon. Nun li forturnas la ĉevalon kaj haltas. Por momento Cezaro vidas la salute levitan manon, sed la polvonubo, ĉion nebulanta, jam forglutis la junan kavaleriestron. Lasante ĉion post si, la venkinto ĉe Farzalo galopas sur la vojo, kiun unu tagon pli frue trasagis la forkuranta Pompejo—al la bordo, al la maro rekte.

7. Neniu el la adjutantoj kaj kurieroj kuraĝas proksimiĝi por rompi la silenton, en kiun li dronis. Kiam li ekokulas ĉirkaŭ sin, li vidas ĉiujn rigardojn fikse alturnitaj. Ŝajne ili volus diveni la pensojn, kiuj maturiĝas post lia frunto, por senprokraste ilin realigi.

8. Sed Cezaro ne emas al nova milito. Li forgesis dum momento la kontraŭulojn de Katona kaj Labiena speco. Nun en tiu ĉi sekundo, kvazaŭ la milito estus finita; kvazaŭ la gesto, per kiu li puŝis ĉe Farzalo la glavon en ingon, estus la lasta kaj definitiva. Li nun ĉasas ne militon, sed pacon, interakordiĝon kun Pompejo — kaj tutanime li klopodas ĝin atingi. Lin tute plenigas la sopiro por ĉirkaŭbraki la malnovan kamaradon, por premi kison de l' amikeco sur liajn vangojn.

9. Ĉu ne estas malsaĝe, ke ili du interbatalas? Kio ja staras inter ili du? Li estas preta ebligi al la iama amiko ĉion, kion li deziros. Ho, kiel volonte Cezaro lin metus apud sian ŝultron, frate dividante kun li rangon kaj potencojn! Cezaro zorgos, ke sub brilo de ilia pozicio estu necesa potenco kaj kreoforto.—tiu plej bela ornamo. Se ili kuniĝos, al ili apartenos la mondo! Do, kial disputi pri l' komuna havaĵo?

10. Sed oni devas plandpremi tiun kanajlaron, kiu kun

守備隊
歩兵隊
ファルザルス市の
休養
勝利の標
命令の霰
副官。急使
實現する
對立者
決定的の
協調。衷心
創造力
共有財産
踏みつぶす

egoistaj motivoj ŝoviĝas inter ilin du; ĝin oni devas forpeli 割込む
al la pozicio kiun ĝi meritas. Kiam temas pri ordigo de
l' mondo, tiu partiaĉo el sinblovaj melonkapuloj kaj krimuloj 徒黨。ホラ吹の
ne rajtas diri eĉ vorteton. Jam tro longe regis la mondon
por ĝia kaj propra pereo la senato, povante fieri pri neniaj
meritoj, escepte pri siaj delonge mortintaj praavoj. Ekde
nun povas kaj rajtas regi nur unu—la dikto de l' kreanta
spirito. 命令

11. El la antaŭo revenas sola rajdanto: unu el la du
galloj. Li informas, ke oni proksimiĝas al iu urbo: Larisso.

12. Cezaro dronigas ĉiujn dezirojn kaj esperojn en sian
plejprofundon, li jam estas plene nuntempa. Koncize li 胸底。簡潔に
ordonas ripozon ĝis alveno de l' postiranta legio. Dume
oni esploru pri plua vojo de Pompejo. Tiam li ekrajdas
kvietan paŝon plue al la urbo kiun li atingas vespere.

13. Tie li ekscias, ke Pompejo unu tagon pli frue for-
rapidas tra la *tempetala* valo al la marbordo. Kaj de tie
ĉi-matene li forvelis al Amfipolo. 出帆した

14. Post noktmezo alvenas la legio. Laŭkutime Cezaro
tuj daŭrigas la vojon al Amfipolo, distanta proksimume 距つた
cent sepdek mejlojn.

15. Sukceso, ke li mallongigis interspacon post la for-
kuranta Pompejo, nur plifortigis la sopiron pri li. Kelkfoje
la sopiro estas tiel potenca, ke li imagas vidi la malhelan,
seriozan vizaĝon de l' amiko, la iom melankoliajn trajtojn,
la grandajn, brunajn okulojn, kiuj lin rigardas—kiel ĉiam
—fikse kaj penetre. Li rememoras sennombrajn momentojn,
kiujn ili pasigis kune, la planojn reciproke konceptatajn,
kiam ili du kaj la grasa, bovnuka Krasso estris la mondon. 猪首の。クラッスス
Tiam la insidema kaj senpova senato devis obei iliajn 陰謀ずきの
ordonojn. Nun ĉio aliiĝis. Krasso restis ĉe Sinnako,
Pompejo kiel forkurinto vagas sen patrujo kaj li mem,
Cezaro iam romia konsulo, nun ribele levis armilojn kontraŭ ローマの。執政官
Romon.

16. Tamen li ne sentas sin korpremita. Lin plenigas 心痛
arda sinfido, ke finfine ĉio bone sukcesos. Se li nur 自信
 atingos Pompejon kaj povos al li senŝarĝigi la koron! Ĉu 重荷を下してやる

iam du homoj povus esti pli intimaj? Ĉu la unua varma rigardo, la unua kora vorto ne povus rompi la muron, kiun fremdaj manoj ŝovis inter ilin du? Pompejo devas kompreni, ke lia loko estas ne apud la senato, klopodanta lin uzi kaj ekspluati kiel sian instrumenton. Ne, la loko de Pompejo estas apud li, apud Cezaro, kiu etendas al li la manon de amikeco kaj estas preta interdividi kun li la estrecon super Romo kaj la mondo.

酷使する。道具

17. Kaj ĉu Pompejo ne estis al li pli ol amiko? Ĉu Cezaro iam ne donis al li tion, kio estis al li plej kara, sian solfilinon? Tia interligo neniam estas disŝirebla: ĉiam io postrestas, ia nedifinebla, dolĉa bloveto, kiu—ŝvebante super la rememoroj—renaskas partojn el ilia forpasinta vivo. Tio verŝajne estos sufiĉe forta por altiri koron de Pompejo al tiu de Cezaro, por rekrei en iliaj animoj la solidarecon, kiu iam ilin inspiradis. Devas reveni la tempo, kiam Cezaro denove nomos sian kamaradon per nomo signifanta al ili ambaŭ samtempe promeson kaj plenumon:

一人娘。結合

連帶性

18. "Pompejo, frato mia!"

19. Jen la pensoj animantaj Cezaron dum lia tritaga rajdado al Amfipolo. Ĉe la tagmezo de la tria tago li atingis tien.

活氣づかす

20. Sed jam tro malfrue. Ĝuste antaŭ unu horo Pompejo forlasis la havenon sur la sole disponebla ŝipo.

使うことのできる

註 1. **Krucsagas la ŝoseon.**「車道をさつと横ぎる」。kruc'sagi は「十字形(車道に對し) に, 矢のように飛ぶ」。これ以下, 主語 (Ili) が略されているが, これは, すさまじい速さの動きを文體そのもので表現したのであつて, 普通のばあいは, まねてはいけない。**Jam plue**「(……と見るまに) もう, さきへ行つている」。

2. **Krociĝas al la ŝoseo**「(ひつかかつているように) 車道をはなれない」。

3. **Tuj post iliaj kalkanoj**「踵を接して」。**forrabas de l' vojo**「道からかつぱらう (2-3 寸の距離)」。

8. **Katona kaj Labiena speco**「(小)カトーやラビエウスの輩」。**premi kison de l' amiko sur liajn vangojn**「この友の頰に接吻する」。

9. **lin metus apud sian ŝultron**「彼を自分とおなじ地位におく」。

15. **ribele levis armilojn**「反逆の兵をあげた」。

川崎直一

自分の新著について

誤り易い單語集
合成語辭典

「誤り易い單語集」は 1939 年 8 月に急に思いついて，三日間で書いてしまつた。後で友人に見てもらつてから，訂正を追加したりしたが…… 英語がもつと上手であれば問題ももつと見つかるのであろうが，Grenkamp, Oficiala Vortaro を見ていつて氣のついたのを拾つただけである。Long の英 Esp. 辭典を見て多少補つたが，なにも Esp. 英辭典，英 Esp. 辭典をこしらえるのではないから，あまり細かなごたごたしたことはやめにした。Esp. と英語の違いを求めれば，それこそ Esp. のすべての單語を説明しなければなるまい。

「原稿がきたない，とてもトーシャ版屋が讀めん」と城戸崎君にしかられて，大阪 Esp. 會の有志の諸氏に淸書をしてもらつた。字が下手なのは，腦髓のある部分の生理的構造に原因するのだから，自分ではどうもできない。結局人にめいわくをかける，まことにすまない。

重要誤植　202 kloŝo の項，「F. *cloche* には sonorilo の意味はない」の「には」は「の」の誤り。全然反對になつてしまつた。

單語の誤り易い場合——お氣づきの例があつたら，おしらせください。再版のときにでも增補します。實は今度集めた例のなかにも實際に（文章，演說など）誤りをせられたのからとつたのがかなりたくさんあります。

☆

「合成語辭典」の材料は數年前にできているのである。1936年に「-o-: Z.-aj Ekzemploj」すなわち lernolibro など眞中に -o- のある例を Zamenhof の著書から集めたものを出版したとき，-o- のはいらないもの，例へば fervojo のようなのもみんなカードにとつたのである。だが自費出版のことゆえ，費用の關係上まず -o- のあるものだけ出版した。「-o- のあるものだけでは意味をなさぬ，-o- のないものと比べなければ……」と野原休一先生からもたびたび催促されたが，ボヤボヤしているうちに紙代組代はむやみに上るし，それに -o- のない例は -o- のあるものの數倍の分量があるので，自費出版はつらいので，そのままになつた。だいたい私は材料がすでに整理されているのに，發表しないのは大きらいである。折角世の中に役にたつものを自分だけのところにとどめておくのは，なんだかドロボーをしているような氣がする。がこの私の良心の苛責をついに解いてくれたのが，城戸崎君御盡力の OES 文庫の發刊である。今年の正月のはじめ，夜中ねむれなかつたとき，ぜひ材料を整理しようと決心した。カードを原稿紙に寫すのに 5 日，その原稿と Z.-aj verkoj との對校に 10 日，それに日本語譯をつけるのに 10 日と見積り，1 月 31 日（私の誕生日）に完成さす豫定をたてた。第 1 と第 2 は豫定どうりにすんだが，第 3 の日本語譯が思つたよりひまがかかつた。すでに日本語譯のあるもの，例へば Marta などは淸見さんの譯を見て，そのままとつたのが，大部分であるが中にはそのままとれないのもあつた。Marta p. 43: ... se pasos semajno, du, monato kaj mi ne trovos akirlaboron? を淸見さんは「一週間も二週間も，一箇月もこのまま過ぎて，それでも仕事が目付からない曉には……」(p. 59) とやつていられる。文章全體としてはまつたくりつぱな譯である，完全に意味がとれてゐる。しかし「akir' laboro「仕事」と辭典に載せるのはすこし考えたい。okupo, laboro, metio . . などとも區別して，ぜひ akir＋laboro であることを多少とも匂わすような譯語にしたい。ポーランド語原書でそれに當る單語を調べ，それのロシャ語譯を見，さらにロシャ語の日本語譯を見たりして，なんとかよい語譯が……と考えた結果「稼ぎ仕事」とした。たいした名譯でもないが，「合成語辭典」の譯語としての心配である。

合成語の形だけ見て，そのまま譯をつけるととんでもない失敗におちいるから，ぜひ teksto をあけて見て前後の文章を讀んでからにせねばならない。例えば altfluga というのがある。「高く飛ぶところの」と例えば鳥が飛ぶのだらうとでも teksto を見ないで，譯をつけては大失敗をやるところである。これは Rabistoj, p. 143 に Ha, malkuraĝulo, kie estas viaj altflugaj planoj? である。

れは進藤君が「昔學生時代に小坂さんの講義を聞いたとき高邁なると譯されたことを覺えている」と敎えてくれた。すこし固くるしいが，さりとて「高飛びの」では意味が通じない。どうも抽象的表現では漢語のほうが現在では表現力が多い。易しい言葉をと思つて aerblovo (Fabeloj III 80) にやはり進藤君の敎えてくれた「いぶき」を與えたら，こんどはカナモジ論者から「そんな言葉は普通の人は知りませんよ」とやられた。

トーシャ版刷なので，なるべく分量をすくなくしようとして，一つの合成語の出典は unu verko からは unu にした。すなはち一つの合成語が3つの verkoj に合計10でていても，各 verko より一つづゝ選んでだすことにした。Revizoro 中の urbestro のように何十回でてきても，別に意味の變化のないものは1回だけでたくさんであるが，altranga のように Fabeloj II 26 では altrangaj personoj であり，Fabeloj II 129 では Ĝi estas altranga loko のようなのはどちらか一つだけにするのはおしい。こんなのは同じ verko からでも二つ以上採つたこともある。

Tekstoj を見て例を拾つてゆくときは，目の疲れたとき，どうかすると讀みちがえる。drink'estro とゆうとても面白い例が原稿に書いてあるので，teksto をあけて譯をつけようとしたが，どうしてもそのページにそれが見つからない。なんのことだ，dsitrikt'-estro であつたのだ。この譯語つけが豫定よりおくれて，2月5日の晩に完成しそうになつた。もう原稿紙10枚ほどになつた。そのときに unuaklasa にであつたが，それには出典すなわち，著書もページもともに書いてない。Zamenhof のすべての著書中の合成語には私のしるしがつけてあるのだから，著書だけか，ページだけかどちらか一つだけでも書いてあれば，再び探すのにさほどの骨折でもないが，兩方ともないと著書全部のしるしを見なければならない（-a- はカードにない）。えらいことになつた，といつて unuaklasa をやめるわけにいかぬ。見落して拾えなかつたのは，自分に氣がついていないのだからしかたがないが，ちやんと unuaklasa は拾つてあるのである。もすこし起きていれば原稿全部完成の喜びを味えるはずであつたのが，これのため駄目になり，今晩中どんなにがんばつても完成しないので，失望して寢てしまつた。さて翌日だが，unuaklasa を探さねばならないが，まあ原稿の殘りを先にかたずけようと思つて，それにかゝつた。ところが幸いなこと，そのうちのある合成語のある teksto のページをあけて譯語を考えているとき，ちようどそのページにこの unuaklasa がでていた。やれやれ。このごろの「英語青年」に Jespersen の傳記が載つているが，その中にカードのことがある。「書物からの引用文では，先づ頁を記し，その次に引用文を記すのが無條件に最も好都合なものである。最初の間は余は逆に書いてゐたが，屢々頁を書き添へることを忘れた場合，只文章だけが記入されてゐるので，引用文が無價値となつた。書名と頁を先づ記入する習慣を養ふ事が大切だ」。まことにしかりだ。

今度の合成語辭典と前の「-o-: Z.-aj Ekzemploj」とは配列が違う。前の「-o-...」に對してある人は「いかなる意味でも alfabeto 順でない」といわれたが，序文にちやんとある意味での alfabeto 順であること，すなわち -o- の前後の子音の alfabeto 順によつて合成語が配列されてあることをはつきり示してあるのだ。今度のは日本語譯をつけた關係上，合成語それ自身の alfabeto 順にした。私の研究題目の合成語中の要素＋要素における子音のひつつきぐわい，すなわち belsoneco の問題は，兩著を比較すれば結論はでるのだが，今度はまだそれを體系化した記述をしていない。

いつたいいままでの一般の Esp. の研究は要素のみにとどまり，要素と要素との結合の研究がたりない。名詞，形容詞それぞれに譯をつけた辭書はあるが，形容詞＋名詞の場合を全部集めた辭書はない。Novaj rdikoj の採集をほこる辭書はあつても，派出語，合成語を集めることは Wüster, Enciklopedia Vortaro Esperanta-Germana を除いては他の辭書はあまりやつていない。Millidge, Esp.英，Nylén, Esp-Sveda でもたかのしれたものである。Wüster が未完成の今日では，私の「合成語辭典」ほど合成語を集めたものは世界にない。といつて自慢はするが，一方これくらいの仕事がなぜいままで Esperantujo にでなかつたかと思えばはなはださびしい氣になる。

滿洲エスペラント運動年表

• 1922～1939 •

編纂者:
松本健一
田中眞美

年月日	地方	會ノ消息，出來事，人物ノ出入等	文献	備考
1922 (大正 11)	大連	內田莊一中將(當時少佐，滿鐵囑託)來連を機として grupo 成立。anoj は同氏の外，(鳥羽修(滿洲日日新聞社)，故玉木文之進(滿鐵調查課)，尾花芳雄以上4人。	滿鐵讀書會雜誌大正12年3；4月號 或寮の話」(玉木)エス運動記事	RO 1939, N-ro 5, p. 214-215 尾花氏「その頃を語る」
1923	各地	Nombroj de esperantistoj:—大連 19，新京(當時長春)4，鐵嶺 4，撫順 3，奉天 2，安東 1，遼陽 1，普蘭店 1，千山站 1，貔子窩 1，旅順 1，大黑河 1，ハルビン 8，以上計 47. 其中 JEI 會員大連 4，鐵嶺 1，計 5. 卽ち $\frac{5}{47}=10.65\%$		JEI 年鑑 1923
	龍山	滿鐵エス會 (Esp. Grupo de Sudmanĉuria Fervojo)。同代表者岩淵幸三郎		(龍山とは朝鮮の龍山と想像されるが，だとすれで朝鮮に何故滿鐵があつたのだろう?)
1/27～2/2	大連	滿洲文化協會後援第1回講習會：指導者高尾亮雄，講習生 150 人，共働者內田少佐，尾花，中溝，Okaŭa.		高尾氏については RO 1939, p. 144 藤間氏の記事參照
	〃	Dairen Esperanto-Grupo 設立		1922 年成立の grupo との關係は如何?
6月初旬～6/29	〃	第1回無料講習會：尾花氏指導，講習生 50 人		
7/3	〃	第2回講習會：會費 50 錢，O. Tobata 指導		
	撫順	JEI 支部成立：anoj 20，代表乙部泉三郎		
12/4	〃	講習會 anoj 20 數人，其中數人 ĉinoj		
1924 4/4～4/25	〃	講習會：撫順小學校で，指導乙部，書記濱田		每金，土，19 時-21 時

	撫　順	第4回講習會：青年會で，例會場は小學校，Oomotanojが宗教的熱情を以て出席		第2回，第3回の講習會　？
4/7～8 5/24 終了	大　連	小坂氏來連（朝鮮→青島旅行の途次）歸途大連滯在2週間，その間に小坂氏指導の講習會2個（初等を19時30分から高等を16時30分から）參加者計30人，又講演2回		
6/17	〃	Dairen Esp.-Grupoの規約作成，代表中溝，adreso 紀伊町滿蒙文化協會，小坂氏の講習會により淵田多穗理，石原眞一，故稻垣刀利太郎老等熱心な同志を獲てGrupoの組織化成る		
6/26	撫　順	小坂氏歡迎會：JEI支部會員120人，全滿第一の盛況		RO 1924, p. 247-248 小坂氏旅行記參照
	長　春（新京）	大東日報編輯者 S-ro Bao-Pu（鮑）la plej bona parolanto en Ĥinujo, malgranda knabo 山口愼一		
	ハルビン	S-ro Inocento Seriŝev (tag-laboristo ĉe presejo), 清水教授，來栖（圖書館長），S-ro Vitsinskij, 胡麻本 kaj aliaj samideanoj rusaj kaj japanaj.		
	開　原	Korea samideano		
1925	大　連	主として石原眞一編輯による機關誌	"Verda Akacio" N-roj 1, 2, 3, 4（謄寫版刷）	後豐浦豐（トイラユタカ）氏これらを一册にまとめて活版刷とす
3/4		講習會：尾花，文化協會で		
7/—		短期講習：工業專門學校で，有馬芳治參加		
1/20～30	撫　順	講習：乙部，參加者20人		
1/22		乙部，ふじや宣傳旅行：一安東°一本溪湖一鐵嶺°（°印にGrupo成立）		
	安　東	安東エス會（安東縣服部棉行內）高橋，週2回研究會，安東圖書館で		
	大　連	エス麻雀考案，尾花		
	ハルビン	Inocento Seriŝev 雜誌編輯發行	"Oriento" 月刊繪入文化雜誌100頁餘，內容東洋諸國の風土人情社會制度等N-ro 1, 2で中止	
	〃	當時の中心人物故 Kazi-Girej		
11/15	奉　天	奉天エス會の基礎成立		
1926 2, 3, 4月	大　連	大連放送局JQAKより每週2回ラジオ講座放送，中溝氏の斡旋による。講座放送の先驅		

夏	大　連	內田莊一氏離連		
	奉　天	會員 30 名，代表工藤喬二，前年暮より講習4回，參加者165 人		
		總會毎年 11 月 15 日		
	旅　順	講習會：月水金，尾坂軍醫指導，衞戍病院將校食堂で，講習生病院將校職員7名		
1927 4/7 より	大　連	佛教青年會主催外國語常識講座，8 週間，英佛獨露支鮮蒙エス語各6時間宛，エス講師尾花，短期講習として右講座中最も優秀の成績を收めた		（井上萬壽藏 滿洲地方旅行10月末歸京されたがそれについての記事はみあたらぬ）
12/15	〃	JQAK から Z 祭放送，プログラム：唱歌 man' en man'（こどもかい，中溝），講演，ザメンホフの力（尾花），合唱 La Espero（DEG 會員）		
	旅　順	尾坂政男雜誌發行	"Medicino"（再刊），醫學方面の論文のエス譯，化學兵器語彙	初刊は何時？
	安　東	安東エスペラント會，安東縣六番地圖書館內，代表中原五郎		
	ハルビン	毎日曜例會，東支鐵道倶樂部で，全員十數名		
		大石高層氣象臺長來訪		
		岡田實氏6月以來來住		
1928 1/22	奉　天	MEF (Manĉuria Esperantista Federacio) 成立：本部奉天		
2/6～17	大　連	初等講習：指導尾坂，尾花，參加者 83 人		
5/13	奉　天	第1回滿洲エス大會開催		
5/18 から	〃	初等短期講習，奉天圖書館で指導鈴木秀四郎		
10/8 から	〃	講習會：滿洲教育專門學校で指導工藤氏		
		毎週例會，指導伊藤修		
11 月	〃	講習會：滿洲醫大病院で，新入會員 22 名		
11/24から	大　連	3 ヶ月間，JQAK エス語講座放送，森原，3000 名にテキスト配布		
12/14	〃	ラジオ放送，森原		
		遞信局內エス語研究會開催，30 人，森原		
	〃	エス單語諳記カルタ考案，尾花		

	大 連	大連エス會，主なる會員，荒川，尾坂，筧，森原，黑住，北尾		
1929	〃	第2回滿洲エス大會開催，參加者 23 人		月日？
	各 地	在滿 esp-istoj の人數 :—大連 23(10)，奉天 9(3)，撫順2(1) 鞍山 1(1)，開原 3(1)，鐵嶺 1(0)，公主嶺 1(1)，安東 2(1) 計 42 (17)，但し（ ）內は JEI 會員，他に興京縣旺淸李浩源，敦化縣衛康富達の ĉinoj 2 人		JEI 年鑑
1 3~2/6	大 連	講習會3個所：中日文化協會（尾坂），中央試驗所（尾花），技術硏究所（淵田），參加者計 150 人	尾花：「歌曲の拍節と歌詞の韻律について」(RO)	
3/1	〃	尾花，淵田引續き中等講習		
	〃	馬鼻郎會 (Babilo) 生る		
2/29	〃	JQAK エス語講座終了		
5/20	奉 天	講習會：滿洲教育專門學校で指導伊藤		
	〃	講習會：實業補習學校で，指導淵田		
	〃	講習會：醫大の中華學生に對して，張氏		
	〃	講習會：對外人に，鈴木氏		
12/15	奉 天	Z 祭兼 P-ro 鈴木秀四郎外遊送別會		
1930	大 連	大連エス會員著作集刊，尾花氏編輯 Akacio Biblioteko 存在	"Verda Akacio" N-ro 3, okt. 1930, 執筆者：荒川，稻垣，石野，尾花	
?	奉 天	第3回滿洲エス大會開催：展覽會講演會を同時に滿鐵クラブで催す。滿鐵に對しエス語採用方要望決議，出席者 16人		
7/9	〃	石黑氏來奉歡迎座談晩餐會，出席者 16 人		石黑修氏か？
		中華人側の會2個存在す（哈爾濱及奉天に） 1. 吉林哈爾濱世界語學會，吉林哈爾濱東省特別區第二中學張宗仁君方，2. 遼寧世界語學會，瀋陽市省立第三高級中學鄂亦況君方		廣州市立世界語師範講習所發行世界語年刊參照
1931 ?	長 春（新京）	淵田氏奉天より長春に轉住，長春エス會誕生		

1/12～1/24	長 春（新京）	初等講習：希望社と協同，滿鐵社員クラブで，2 週間，參加者約 30 人，終了後大半會員となる		
	〃	毎木研究會開かる		
	ハルビン	The Harbin Rotarian N-ro 3 エス語の巻頭言	"Firme, pli firme"	
2/16～22	奉 天	初等講習：指導伊藤，毎日 2 時間，受講者 12 人，終了後毎水例會を開く		
5/11 より	旅 順	講習會：關東廳學務課及旅順語學校主催。2 週間毎夜圖書館で，講師石原，受講者 40 餘人		
5/11～23	奉 天	短期講習：終了後毎木，金 2 回の會合を開く。峰下氏宅で Karlo を輪讀，指導伊藤		
?	大 連	婦人部初等講習，講師石原，參加者 19 人		
5/15	長 春（新京）	講習會：長春實業補習學校々友會主催，講師淵田，參加者 50 餘人		
	大 連	陸軍航空兵少佐加藤正美氏大連飛行場長に榮轉來住		加藤氏：現名古屋豐國機械大江工場長
8/2	〃	滿洲エス聯盟第 4 回總會，於中日文化協會，參加者 26 人其中中國同志 2 人，議長荒川 可決議案：1) 日支親善に寄與する目的を以てエス語普及に關し關東廳長官並に滿鐵總裁に建議書を提出する件，2) 關東廳及滿鐵會社をして之が實現に努め相當なる後援及適當なる施設をなさしむること		
10/21	奉 天	展覽會：滿洲醫大開學記念祭に際し，委員長峰下，委員米本，岩田。3 つの研究 grupo を持つ		
	長 春	Z 祭：於高等女學校，時局の關係で出席者僅少寂しかつたがしんけんな會合を持つ	荒川氏パンフレット「滿洲公用語問題」	
1932	ハルビン	Manĉuria Esperanto-Grupo ĉe S-ro P. A. Pavlov, Harbin が「世界語年刊」に載る 同年刊に登錄記載されている中國同志：—		「世界語年刊」廣州市立世界語師範講習所發行，1932（第 2 回）（第 1 回は 1930 年發行）
	吉 林	陳毅然(商)吉林省城永衡印書局		

		顧麟生(學生)吉林省城魁星樓後胡同3號		
	黑龍江	徐今凡チチハル第一師範徐天從方		
	遼寧	遼寧世界語學會：同志瀋陽4(學生3, 書館1), 營口1(科員), 昌圖1(學生), 太平川1(學生), 計7人		
	大連	大連エス會, 中日文化協會內例會每週1回, 會員30人, 幹事, 石原, 鈴木, 北尾, 有馬	大連エス會機關誌 Tagiĝo (monata)	
	奉天	MEF 加入地方會, 大連, 旅順, 奉天, 長春, 撫順		
	長春	研究會每木を復活, 6-7名會合, 月水金夜淵田氏宅で特別研究會を持つ		
	大連	エス語說明付繪ハガキ發行(中溝)	飛行機上よりみたる大連市街(1組30錢)	
3/27	〃	老虎灘にピクニック開催, 10人		
4/21	〃	千葉聯隊長として吉林方面に向う大連エス會生みの親 kolonelo 內田莊一と驛頭交驩		
		高橋邦太郎氏主唱, 滿洲國政府國務總理, 民政, 外交, 實業, 交通總長閣下宛(日本內務大臣, 文部大臣宛とともに)陳情書呈出		RO 1932, p. 242
4月下旬	新京	淵田氏「新滿洲國首都新京より廢止運動を提唱す」と題する印刷物を各方面に配布す		
	ハルビン		The Harbin Rotarian N-ro 10 に「エスペラント是非論」	
	間島	講習會：於東亞學校, 講師韓景雲, 男子部女子部の2		
8/10	大連	大橋介二郎長春よりの歸途來連歡迎會, 旅行談		
10/2	〃	老虎灘にピクニック 7人		
11/28～12/11	新京	第3回初等講習會：新京エス會及人類愛善會新京支部主催於本派本願寺, 講師淵田		
12/14	新京	Z祭		
12/15	奉天	Z祭：尾花氏撮影, 1931年MEF總會活動寫眞		
12/15	大連	Z祭：20人, ラジオ放送：講演(中溝), 合唱ローレライ及タギージョ(會員有志)		
1933	〃	Dairen Esperanto Societo と改稱, 機關誌出る	Akacio N-ro 1. 山中其他 (Dec.)	

7/3	ハルビン	鈴木北夫永田秀次郎氏團長の滿洲國産業建設學徒研究團員として來滿，ハルビン S-ro Pavlov 訪問	「Pavlov 氏訪問記」鈴木北夫「エスペラント」1933, N-ro 11, p. 9	
6/25	大連	初等講習：於伏見臺中央試驗所，2 週間		
11/—	〃	宋禹憲（JEI 評議員）來住		
12/15	〃	Z 祭：於伏見臺電氣遊園圖書館		
1934	大連	anoj 35 人，例會をRensa kunsidoと稱しMarukita teejoで毎週1回		
	新京	藤澤忠雄京城より來住		
	ハルビン	吉田松一醫博仙臺より來住		
1935 4/28	大連	第7回滿洲エス大會開催，於滿鐵社員クラブ，19 人，滿洲エス聯盟及滿洲エス聯盟總會の名稱決定，議決事項：滿洲グラフにエス文の説明を入れる運動をする事		
3/—	〃	機關誌發行	"Akacio" N-ro 2.（有馬編）附錄：全滿エス人名簿	
	〃	例會，毎火，双葉學園で，テキスト Georgo Dandin.		
		事務所北尾方となる，有馬羅津へ轉出		
11/—	〃	筧氏 Gvidfolio を作る，發行部數 1000	"Gvidfolio por Vojaĝantoj en Manĉoŭkŭo"（滿鐵發行）英原文より飜譯	
9/6～29	〃	滿洲日日新聞紙上にエス語に關して論戰現れる	滿洲日日新聞投書欄 9月6日，Imasato（錦縣）「誇と恥辱」；14 日積氏「研究發表用語」；19日南氏「英語崇拜者に」20 日 Imasato「ホンヤクはこちら持」；21 日日本人「流線型言語」； 29 日アリマヨシハル「對等である」	
12/15	〃	Z 祭：15 人		
4/—	奉天	機關誌創刊	"Luma Azio" N-ro 1（但し以後なし）	
1936 1/—	大連	大谷正一清津より來住		
6/18	〃	例會場：星小兒科醫院（院長星直利，醫員長里德保）に變更，第1回例會を開く，毎火，teksto 北歐篇，マルタ，事務所も同所に變更，例會8名を下らず，婦人同志 4-5 名を獲る	筧太郎譯，G. Waringhien：フランス文學とエスペラント	RO 1936, p. 131～133, 154～156
			筧：滿洲國旅行案内栞に對する請求書を整理して	RO 1936, p. 438～441
7/16	〃	初等講習：埠頭ビルで		

		德安 Del. de UEA となる	Sud-Manĉ. Fer. K-io: Respondante al la demandoj pri manĉurio.	RO 1936, p. 493～494
		寛氏等 R. O. に執筆		
12/15	大連	Z 祭: 15 人		
10/—	奉天	北尾來住		
12/—	〃	大谷來住		
1937 4/—	ハルピン	大木克己東京より來住		
4/15	奉天	ラジオ放送, 大谷「エスペラントの話」(30 分)	大谷:「放送顛末」	RO 1937, p. 253
5/5	新京	JEI 新京支部成立		
6/1	新京	支部發會式: 新都病院で, 15 人出席		
	奉天	例會: 每木, 醫大で,「ベツレヘムの子供」輪讀, 10 人內外		
	〃	有馬來住, 大谷ツーリストビューロー入り		
10/21	〃	例會: 安部氏宅		
	〃	大谷 R. O. に執筆	大谷: "Mej-fazu"	RO 1937, p. 348
	〃	大谷「旅行滿洲」に飜譯發表	「旅行滿洲」第 6, 7 號「綠星世界週遊記」 "Ek al Manĉoŭkŭo" "Kiam alvenas, tiam ekveturas". (滿鐵 鐵道總局發行)	
	〃	大谷 Gvidfolio 2 つ出る		
	〃	中原氏, 渡歐途次來訪		
12/14	〃	Z 祭: 醫大で, 11 名。ラジオ放送, 安部博士, 家庭講座の時間に「歐洲旅行と國際語エスペラント」, 大連, 新京に中繼		
	大連	例會場, 宋氏宅, テキスト「スラブ篇」		
	〃	屋臺立喰店 "Varma kafo adoni kuko" 出現		
12/15	〃	Z 祭: 滿鐵社員クラブで		
12/—	奉天	高木貞一來住		
1938	大連	伊太利使節團長パウリツチ氏へ加藤醫學博士孝子夫人自作カブキ人形勸進帳辨慶を贈呈に際しその說明文にエス譯添附, 大連エス會譯		
		寛氏雜誌へ執筆	「新天地」第 9號「秋の女」(筆者がエス語を教えたポーランド婦人の最後の手紙の飜譯。その前書にエス語を教えるに至つたいきさつ)	
		守隨氏來住(年末)		
	瓦房店	由比氏來住, 大谷氏轉住		
	新京	1937 年ワルシャワ第 29 回萬國エス大會の實行委員會は大會の決議にもとずき各國政府宛「エスペラントを學校へ採用」の件につきフランス文の公文を送つたに對して滿洲國政府外務局はこれに對してエスペラントで回答		この回答の執筆者は誰？宮本氏か？其の內容如何？

8/—	新　京	平田勳氏最高檢察廳次長として來住，荒川氏訪問，援助の約言あり		
11/3	〃	大谷新京ビューローに轉勤		
11/6	〃	岡本好次氏京城より來京，座談會及平田氏訪問		
11/—	〃	松本健一，餘川久雄，布村正之來滿		
1939	一　般	滿洲國，中國に對する關心あがり，R. O. 誌上にその指導的論說再三現れ，滿洲エス運動やや活氣を呈す	例えば RO p.57 (三宅氏), RO p. 93(三宅氏), RO p. 400～406 山縣光枝「大陸と日本語」，高木貞一「日本語の使命」等々	
8/6		全滿エス懇談會(第8回 MEF 總會)(於新京)出席者 8 地方より 25 人，MEF 本部奉天より新京に移轉，代表者安部氏交替荒川氏となる，平田氏講演	平田勳氏講演要旨「八紘一宇とエスペラント」(500 部印刷)	この講演要旨は新京日日新聞11月21～24日紙上に公表さる，Ne-esp-istoj-eminentuloj 間に反響あり
2/25	大　連	守隨氏歡迎會，5 人		
5/26	〃	宮崎，由比兩氏歡迎會，10 人		
	新　京	例會復活，毎土(後毎水に變更)，於荒川氏宅，「ザ讀本」輪讀，時々の paroladoj：中村「モーパッサンの戀愛」；荒川「人生觀」	「協和」10月1日號宮崎氏「滿鐵とエスペラント」；協和 11 月號，高橋邦太郎氏「滿鐵とエスペラントを讀みて」	
		毎火，初等講習，住吉氏宅，住吉夫人指導		
4/15	〃	Z 祭：6 人。荒川氏執筆	新京日日新聞 4 月 15 日，荒川氏「言語の國防」	
	〃	大阪伊藤幸一氏來京數日滯在		
5/—	〃	山縣孃東京から來住		
6/12～16	〃	宮崎氏來京，全滿各地を廻遊		
11/—	〃	全滿エスペランチスト名簿發行(收載人員 113 名)(300 部印刷)		
		松本，山縣 R. O. 誌及新聞に執筆	松本："Mia Vivo sur la Nova Lando"	RO 1939, p. 370～374, (Juna Vivo 1939, okt.-nov. に轉載)
12/15	〃	Z 祭：藤山一雄來賓として參會，10 人	山縣："Virina Vivo en la Nova Urbo".	RO 1939, p. 516～517
			松本：「エスペラントに就て」	滿洲新聞 11 月 1-2 日
			山縣：「滿洲國とエスペラント」	滿洲新聞 11 月 5-6 日

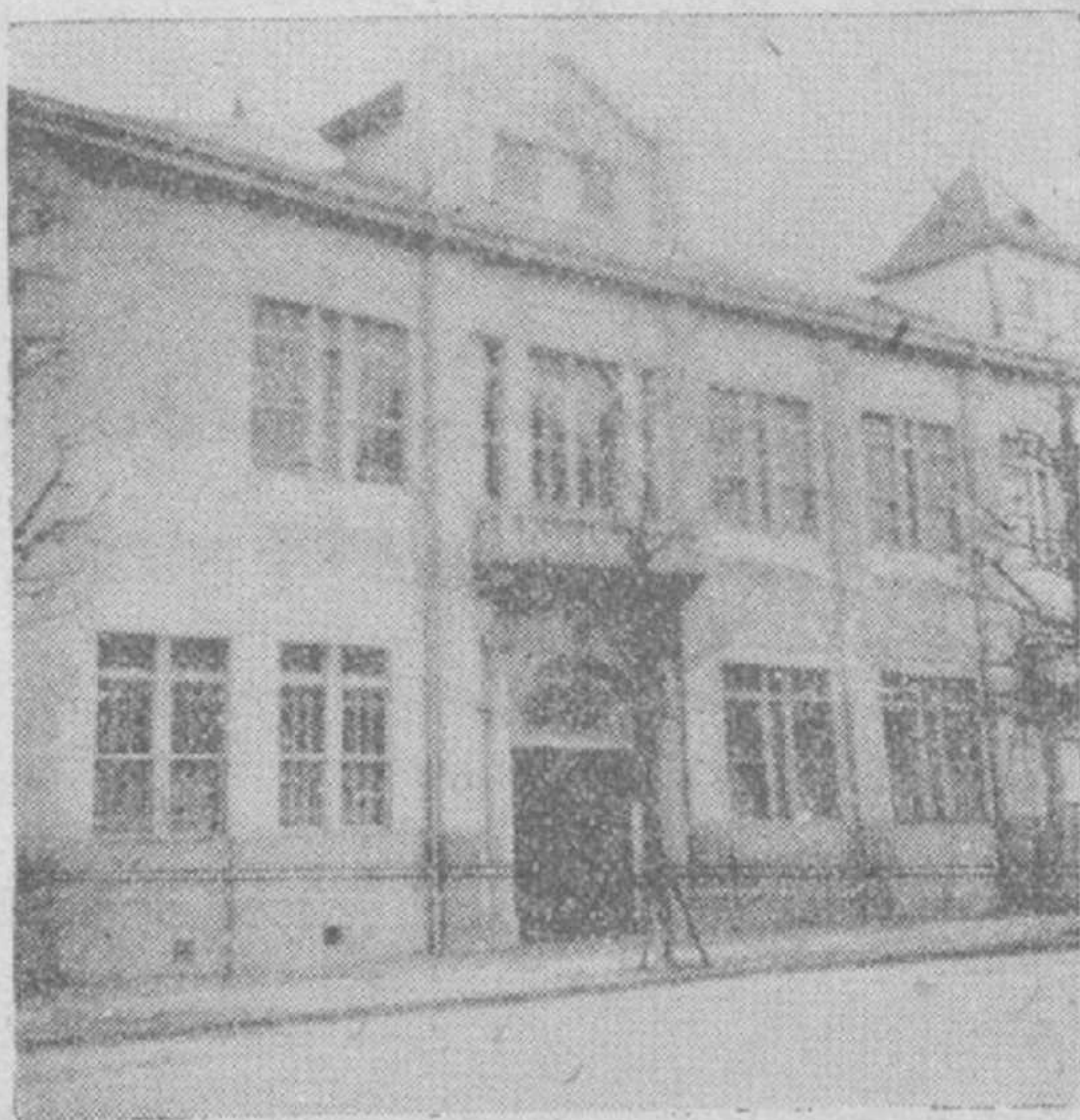
あとがき

此の年表は主として "La Revuo Orienta" 誌の報道欄の記事の拔書 (1923～1925 及 1928～1939, その間 1926～1927 缺) を中心にして JEI 年鑑其他によつたもので，繁簡その度を得ぬところや，脫落しているところ多々あるべしと存じますので，諸先輩の御指摘を得て完全なものとし，われわれの歩んで來た道を瞭かに認識することによつて，われわれの歩むべき正しい方向を打立てる一つの資料にしたいと思います。

LA REVUO ORIENTA

Aprilo 1940 Jaro XXI N-ro 4

和光女子學院に
エスペラント科



昨年開校，獨特の女子教育をほどこしている小谷德水氏の和光女子學院では，この4月の新學期から，實務科でエスペラントを教えることになつた。

實務科は女子中等學校の卒業者に簿記，速記，カナータイプそのほか能率的な實務知識を與える目的でおかれたもので，修業年限1年今年度の募集人員は40名である。校舍は市電傳通院前（小石川區表町54）にある。

ヨーロッパ戰爭とエスペラント

すでに事變第4年に入りながら，日本では，學會會員の數には變化なく，機關誌は毎號かかさず出ており，會員のうち動員されたものもかならずしもすくなくないが，戰死者はきわめてまれである。ところが，ヨーロッパでは戰爭がはじまると，たちまちエスペラント運動 影響を受けて，部分的には，かなりの打擊をゝうけているようである。しかし，一般的に悲觀論におちいるよりも，戰爭ののちに來るエスペラント運動の飛躍期を期待して，樂觀論に立つ傾きが見えている。

ヨーロッパを主として，各國のエスペラント運動の現狀を眺めてみよう。

イギリス

ドイツ航空隊のロンドン空襲の噂におびえるイギリスでは，Brita Esp-Asocio は，事務所をロンドンの銀座ハイ•ホルボーンから，郊外へロンスゲイトの IEL 本部事務所「エスペラント館」へ移した。

四六倍版20ペイジの機關誌 "The British Esperantist" は，昨年10月號以後は8ペイジに減つている。しかし士氣は沮喪しているとは見えない。

フランス

開戰後まもなく，しばらく，エスペラント文による印刷物の發行が禁じられた。これはたぶん檢閲の都合からで，エスペラントそのものに對する壓迫からではないとおもわれる。（エスペラントに關する記事を書くことはさしつかえない。）中心機關 Societo Franca por la Propagando de Esperanto の機關誌 "Franca Esperantisto" は，9-10, 11-12 の合併號2册が出ただけである。

エスペランチストのうちすでに戰死したものもあるとのことである。

上記の SFPE は，パリから，Le Mans に移つた。

パリに本部をもつていた SAT は，オランダへ本部を移した。

ことしの萬國大會は，この國のマルセーユで開かれるはずであつたが，開催は不可能とみられている。

ベ ル ギ ー

Reĝa Belga Ligo Esperantista の會長 Kempeneers 博士は動員された。

ブルージュのエスペラント會では，會合ごとに「エスペラントのための1錢」をあつめその半額は，毎月「慰問袋」にあてられる。

フランドル人エスペランチストの機關誌 “Flandra Esperantisto” はすでに2月號が來た。

オ ラ ン ダ

現在，エスペラントがもつとも盛んなのはこの國といつてよいであろう。

エスペラントの國際的の雜誌はつぎのとうり，ほとんどこの國から出ている。

Heroldo de Esperanto——週刊であつたのが，開戰と同時に，發行がとどこうり，ほとんど月刊の狀態にあつたが1月からは月2回發行になり，1年分豫約價を 3.50 gld.（約7圓）に値下げした。

La Praktiko——チェ教授法でなだかい Internacia Ceĥ-Instituto de Esperanto の機關誌。ひきつづき出ているが，その事務所兼エスペランチスト宿泊所である，Arnhem の Esperanto-Domo は，開戰後まもなく軍に徵用され，事務所をハーグへ移した。

La Granda Familio——昨年秋に創刊，新聞紙型8ペイジで，毎月かかさず出ている。

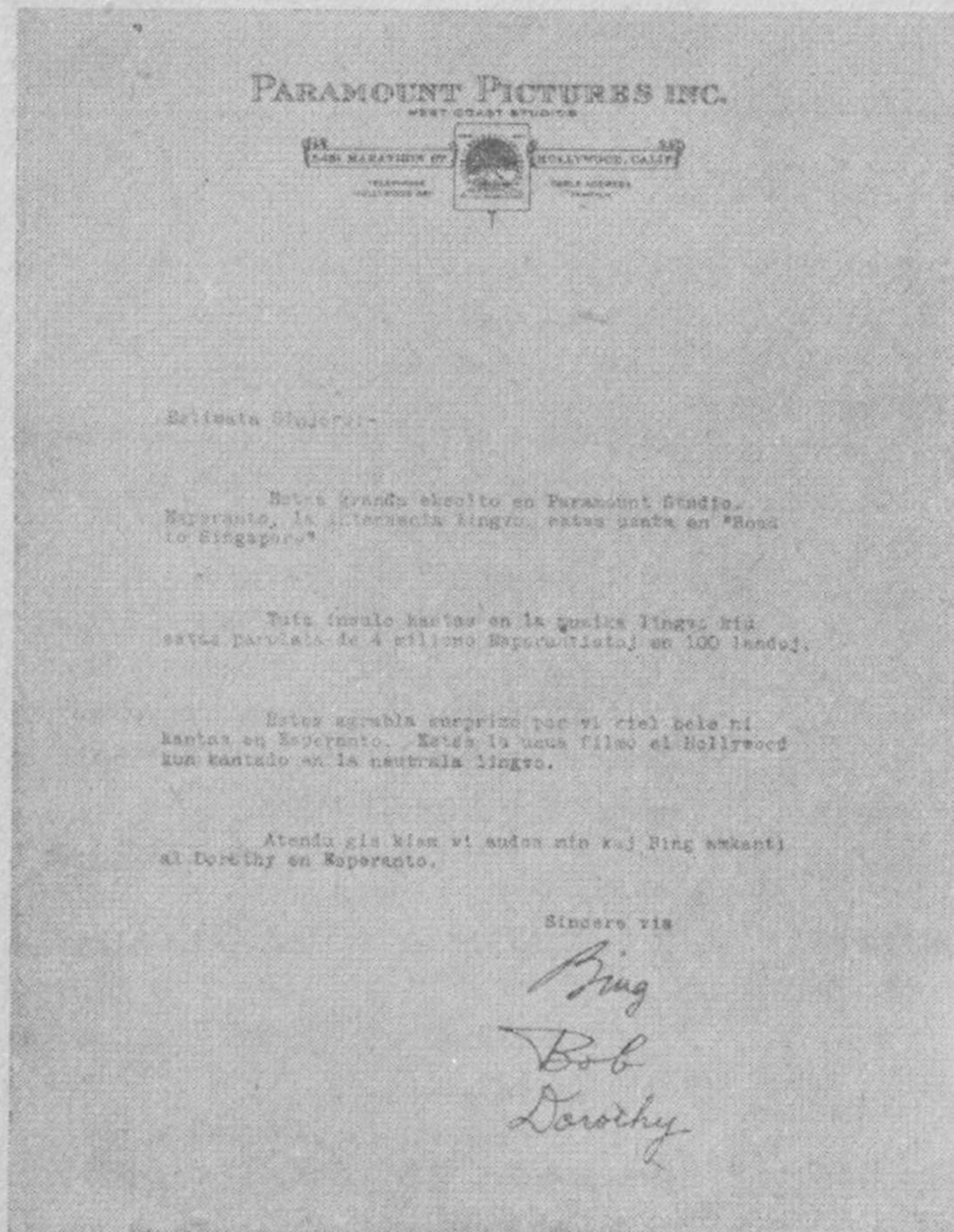
La Juna Vivo——少年むきの雜誌。今年にはいつてからは，まだ來ない。

Sennaciulo——SAT の機關誌。

第 17 回國內大會は3月末3日間にわたり盛大に開かれる豫定。

北 歐

スエーデンは，あいかわらず盛んにやつているようである。機關誌の “Sveda kroniko”



PARAMOUNT PICTURES INC.
WEST COAST STUDIOS
HOLLYWOOD, CALIF.

Estimata Sinjoro:-

Estas granda ekscito en Paramount Studio. Esperanto, la internacia lingvo, estas uzata en "Road to Singapore"

Tuta [illegible] kantas en la muzika lingvo kiu estas parolata de 4 milionoj Esperantistoj en 100 landoj.

Estas agrabla surprizo por vi [illegible] bele ni kantas en Esperanto. Estas la unua filmo el Hollywood kun kantado en la neutrala lingvo.

Atendu ĝis kiam vi aŭdos min kaj Bing [illegible] al Dorothy en Esperanto.

Sincere via

Bing
Bob
Dorothy

宣傳にもエスペラント
パラマウントの
エスペラント映畫

3月號で報道したエスペラントの歌の歌われるパラマウント映畫「シンガポールへの道」について，左に寫眞版で挿入したような，ビング・クロスビイ，ドロシー・ラムーアなどの主演者の署名入りのエスペラント文の手紙が本誌編輯部あてに來た。

しかし，せつかくのこの映畫が日本へはいるかどうかはわからない。

訂正： 3月號のこの欄で紹介した Nova Romanserio をプラクティコ社發行としたのは誤りで，オランダの LEA 發行と訂正する。

欄をみても，活躍にやつているありさまがうかがわれる。

ノールウェイについてはあまり消息がない

フィンランドは，ながらく沈滞していたのが，最近やや活氣を呈しはじめていたが，ソ芬戰爭がおきて以來の消息はわからない。

エストニアでは，"Informoj de Esperanto-Asocio de Estonio" は，昨年の 11 月と12月號の合併後を出してからは，まだ來ていない。その號には，同誌を休刊に陷れぬようにと會員へよびかけている。

リトワニアもひきつづき運動をつづけているようで，"Litova Stelo" も，ひきつづき出ている。

中止になるみこみの萬國大會にかえて北歐エスペラント大會をスエーデンの首府ストックホルムに開く計畫がすすめられているが，フィンランドの問題でこれも危まれる。

イ タ リ ア

イタリアでは，機關誌は，すでに長らく出ていないが，ENIT 方面での利用が，ますます活潑であることは，ときどき報道のとうりである。

中歐・バルカン

中央ヨーロッパは，ドイツのチェコ併合以來すつかりさびれて來ている。しかし，ヘロルド誌によれば，チェッコでは，Esperanto-Asocio de Ĉeĥoslovaka Respubliko が Ĉeĥa Esperanto-Asocio と名を改めて存續しており，11月 29 日づけで，機關誌 "Ligilo" を出している。そして，この協會は昨年 9 月 16 日プラーハで總會を開き，プラーハの事務所を維持し，機關誌の繼續發行を決議した。

バルカン方面からは，戰爭勃發後機關誌が來ない。

ギリシャでは，文化國民教育省が 10 月 9 日づけで，各學校長あてに，エスペラント課外講習に便宜を與えるようにとの，數回目の回章を出している。

ア メ リ カ

アリメカでは，シェーラー氏がハリウッドで活躍し，MGM, RKO, パラマウントにエスペラント入映畫を作成させることに成功していることは，かねて報道のとうりである。あと二十世紀とユニバーサルを射落せば，大物總ざらえとゆうことになる。

南 米

ブラジルは，いま，世界中でもつとも活氣を呈している。landa asocio の Brazila Ligo Esperantista の機關誌 "Brazila Esperantisto" のほかに，昨年の夏から，地方會 Pernambuca Esperanto-Asocio が，月刊の "Pernambuco Esperantista" を出している。

アルゼンチンは，南米では，ブラジルについでいるが，ブラジルには，まだおよばないようである。

SUR LA ĴURNALISMO

新聞雜誌とエスペラント

東洋之光 1 月號「所謂外國語問題について—— 嚴浩奭」——日本における外國語の沿革を論じ，特に中學校に於ける英語教科の無意義に依る全くの廢止と，これに代るエスペラントの全面的採用を提唱。（堂林浩次氏報）

改　造 1 月號「標準日本語 —— 小幡重一」第 2 節に「玆に標準語といふのは何も日本各地に於て使はれる言葉から抽出したエスペラントの樣な理想言語を云ふのではない」。

朝　光 1 月號「エス語辯護の辭——金沼葉」—— エスペラント學習の動機と將來への希望。（高允鎭氏報）

知　性 2 月號「サンマアヒルの教育者——久保貞次郎」のなかにイギリスのエスペランチストに言及している。

教育美術 2 月號「英國北部への旅——久保貞次郎」（世界の兒童畫•4）エスペランチストが出て來る。

教育美術 3 月號「英國の友人——久保貞次郎」（同上•5）主として，イギリスのエスペランチストについて。

精神分析 1 月號 "La misio de japana psikoanalizo en la orienta nova kulturo, Kenĵi Ocuki. (Esp-igita de Jukio Onoda)" 卷頭論文の resumo.

精神分析 3 月號 "La diboĉvolo en virinoj kaj ĝia moraleco, de Kenĵi Ocuki. (Esp-igita de Jukio Onoda)" ——卷頭論文の resumo.

祖國日向新聞 14. 12. 25 「新年各雜誌の日向顯彰，エスペラント國際寫眞畫報」——本誌 1 月號に言及。

各地報道

原稿は 20 字詰に！
締切は毎月末日嚴守

東　　京

〔東京エス俱樂部〕 本年度 TEK 委員は下記の通り決定致しました。

委員長　佐々城佑

委　員　橋本巖，福富義雄，井伏貞子，井田千枝，岩下順太郎，石黑捷三郎，安井義雄，木村正太郎，久保貞次郎，松本清一，根本宣尙，酒井鼎，笹原茂三郎，高橋菊藏，高見宏，田澤義夫，上田嘉三郎（ABC 順）

今後の事業方針協議中に付御氣付の點，學會氣付 TEK 委員會宛御指示の程御願申上ます。（石黑）

歡迎會豫告

TEK の發起者の 1 人であり，長らく幹事長であつた，公務上京中の札幌控訴院判事

堀　眞道氏

昨年夏アメリカへわたり，今年 1 月歸朝された「エスペラントの本質」の譯者

倉地治夫氏

中支戰線から，めでたく凱旋された

石黑喜久雄氏

の 3 氏を迎える歡迎會を催したいとおもいます。ふるつて御出席を！

日時： 3 月 16 日（土曜）午後 6 時から
會場： 基督教青年會地階食堂
神田美土代町
會費： 80 錢
申込： 3 月 15日までにつくよう，學會氣付東京エスペラント俱樂部幹事あてに。

〔學會水曜例會〕『豐田ゆり子さんに，ヨーロッパの近況を訊く會』が，2 月 21 日の夜，學會の講堂で開催されました。出席者約 50 名，内婦人 7 名。これだけの人が，四角に列べたテーブルを圍んで皆んなが顏を見合つて，始めから座談的にお話を聞いたのです。

豐田さんは，ウインナに留學 3 年，國立音樂學校を卒業され，今度の歐洲戰爭が始つてからあわたゞしく歸朝された方で，生々しいヨーロッパの情勢，殊にエス界の近況，學生生活や婦人の生活の實情等，御自分で經驗された事を問わるゝまゝに詳しくお話し下さいました。始めは流暢なエス語で，中途からは爽かな日本語でしたから，エス語の充分でない方をも滿足させました。こうゆう會に又出たいと申された方が幾人もあり，ほんとに樂しい有益な集りでした。

☆水曜例會は只今佐々城佑先生によつて，ザメンホフ演說集の第 7 回の中頃まで進んでおります。（教科書は學會にあり，40 錢）皆樣御出席下さいませ。（*S. Ibuŝi*）

〔婦人聯盟東京グルーポ〕 2 月例會＝12 日菊廼舍に於て。出席者は荒井，後藤，大森，萬澤，石。新聞をテキストにして時事問題について語り，又瑞典の民話を輪讀輪譯した。

☆哲學講座＝講師地主氏，用書，波多野先生著「哲學史要」。每回熱心に續けられている。「開明時代の哲學」を終る。（萬澤）

北 海 道

〔北海道エスペラント聯盟〕 2 月早々第 7 回全道大會のプロトコーロも出來上り參加者及び聯盟會員に機關印刷物と共に配布した。機關印刷物は用紙 1 枚，プロトコーロは半紙判 9 枚の見事なものである。大會の式順に從い代表者の挨拶はじめ協議會に於る議事錄，學力檢定試驗の問題まで丁寧に蒐錄したところは，まるで日本大會のプロトコーロそつくりである。大部手前みそになつたが，この發行は佐藤君の努力になるものである。展覽會材料は其後さつぱり集らない。御寄附下さる方は下記に御送り下されたい。（相澤）

札幌市豐平町五條九丁目
北海道エスペラント聯盟本部

新　　京

〔新京エス會〕 1 月 17 日荒川氏宅に新年宴會を催す。同夜大山聖華氏北支旅行の途中，

前ぶれもなく來會し，同志數人と卓を圍みて盛に喰い，大いに談ず。

1月21日ハルビンの S-ro Kio 旅行の途次來京，同志數人歡迎の小宴を張り，大いに語る。neorganizita esp-isto と自稱する氏の最近の活躍には敬服する。旅行中の同志訪問手紙に依る instigo 等々。

當會は毎週水曜日に例會を開き，Z 讀本 Dua parto 輪讀中。1月より守隨氏の參加を得，新に黑河より來京の堤氏も參加している。

當會田中貞美氏は新舊文獻より滿洲關係資料蒐集，整理して，滿洲エス運動史（エス文）を編輯今度脫稿した。原稿約 48 枚，出版の篤志家はありませんか。

毎週例會出席者7人，會場は新京祝町 2-14 新滿社內新京エス會 （金明烈）

Parolas Membroj

「圖解辭典」の
エスペラント部を作りたい

今年の正月に三省堂から「日英獨佛圖解辭典」がでた。本屋の店さきにならんでいるから，すでによく實物を見られてその便利さを感心せられたことであろう。さらに esp-isto ならこれをみてきつと「Esp でもこんな辭典があつたら」と思われたにちがいない。もつとも Esp でもいままで「圖解辭典」式のものがないではない，Hirt からの Goldschmidt, Bildotabuloj がある。だがわずか 30 枚あまりの繪しかない。Benson の大著，Universala Esperanto-Metodo にはずいぶんたくさん繪があるが，これは alfabeto 順にならべた單語のあるものにつけてあるので，單語はほとんど oficialaj radikoj が主で，その數もしれたものである。圖なしの單語分類表としてはいろいろあるが，Bobin, Les mots Esp groupés selon le sens あり，Hecker の Wortschatz あり，日本でも久保會話あり，Benson の本にも listoj de samspecaj vortoj がある。しかしこれらはまだ單語の數がはなだすくない。三省堂の今度の本は天文，食物，運動，機械，衣服……など 470 ほどに大別けされたうちに，4,500 ほどの圖版があり，これに對應する單語は 72,000 ほどにのぼる。もちろん種本としての英佛獨の各種の辭典からとつたのであるが，英佛獨が一ぺんにながめられ，それに日本語がついているのが便利である。專門家が見れば自分の部門が專門的には貧弱とゆうであろう。圖解を主にしたので圖を必要としない，あるいは圖であらわせない單語のないことは殘念であろう。また全世界の Esp-ujo が總動員すれば，もつとりつぱな，もつと國際的なものをもつくることができるであろう。しかし我々はあまりに目標のみを高きにして，實現のたやすい方法を輕んじ，それによつて實現せられることまで實現しなくしてはならない。なにを實現しようとするのか？曰く三省堂の「圖解辭典」の Esperanta Suplemento を作ることである。これだけが獨立のものでも，ページ數と排列を原本と同じにしておけば，原本の圖も利用できるし，日英佛獨語をすぐたやすく對照することができる。

日本で出版された本であるから，手に入れることはたやすい。ここにでてくる單語に全部 Esp の termino を考えてつけるのである。1人で全部をやろうとすればなかなかたいへんだが，日本の esp-istoj を專門によつて，適當に徵用すればたやすくできると思う。日本の Esp-ujo もこんなことぐらいできなくてどうするか。

作る方法，言い出した責任として私がまとめ役すなわち幹事になつて連絡をとる。各人自分のやりたいと思ふページを幹事まで屆けてほしい。そしてできたら送つてください。もし同一ページに數人の希望者があれば，お互に智慧を貸し合つたり，共同研究して完全なものにすればよい。さて私はまず 322-328 神話をやる。（川崎直一）

（大阪市住吉區萬代東2丁目49）

本郷だより

「本郷だより」のペンをとつたところへ，おもいがけなく，大阪の福田國太郎氏のなくなられたしらせがまいりました。

福田さんは 30 年あまりのながいエスペランチスト生活をおくられたかたで，大正10年ころうつくしいエスペラント文化雜誌 "Verda Utopio" を相坂佶氏，平野夕顔氏などと出されたこともあります。

いずれくわしいおもいでを5月號に，どなたかに書いていただくつもりでおりますがとりあえず，つつしんで，哀悼の意をあらわします。

アメリカからお歸りになつた倉地さんに，報告を書いていただくつもりでおりましたが，お仕事がいそがしく，今月號にはまにあいませんでした。來月號には，ぜひいただくはずになつております。

3 月號「リングヴイ・レスポンドイ」のうち，わたくしの答えた ŝia の問題について，p. 11 最後の行に，「ここに Marta の原書があり」しかじかと書きましたところ，川崎直一氏から，Marta のポーランド語の原書をしらべたところ，malgranda kapo としかないと，お教えくださいました。すると，これは，ザメンホフがわざわざいれた單語とゆうことになり，問題は一層おもしろいとおもわれます。

したのとうり，講習會を開きます。お友だちにおすすめください。くわしく書いた印刷物はおもうしこし次第お送りいたします。　M. Ŝ.

〔二月中學會訪問者〕　加藤正美氏(名古屋)，小坂狷二氏(名古屋)，近藤誠治氏(天津)，高木貞一氏(奉天)

新賛助會員 (2 月中)

したのかたがたは，あたらしく賛助會員になつてくださいました。ありがたく存じます。

石川宅十郎氏(東京)，上谷良吉氏(東京)，金子精吾氏(横濱)，川原とき夫人(東京)，岩山明正氏(横濱)，亘理俊雄氏(横濱)。

〔公告〕

高等試驗施行

したのとうり，高等試驗を行います。

昭和 15 年 3 月 12 日
試驗委員會

時日　昭和 15 年 4 月 29 日(天長節)

場所　宮崎市

申込　4 月 15 日までに，學會あてに，住所氏名（ローマ字つづりつき）明記，受驗料2 圓をそえて，おもうしこみください。(振替東京11325番)

發表　合格，不合格は受驗者へ通知，合格者氏名は，學會機關誌で發表します。

證書　合格者には，學力認定證を送ります。

エスペラント講習會

初等科　3 月 25 日から 5 月 24 日まで
毎週**月**，**金**午後 7 時から 9 時まで
費用：　會費全期 3 圓(前納)，教材代 30 錢(初等讀本)

中等科　3 月 26 日から 5 月 25 日まで
毎週**火**，**土**午後 7 時から 9 時まで
費用：　會費全期 3 圓(前納)，教材代 30 錢(中等讀本)

高等科　3 月 28 日から 7 月 25 日まで
毎週**木**午後 7 時から 9 時まで
費用：　會費全期 4 圓(前納，または 2 圓づつ分納)
教材代 50 錢（ザメンホフ讀本）

會員特典：　學會會員は，初等，中等は 2 圓 50 錢に，高等科は 3 圓に割引。

毎月一回一日發行　エスペラント　第八年第四號
昭和十五年三月十日印刷納本
昭和十五年四月一日發行
編輯兼發行人　大井學
印刷人　竹田佐藏　東京市神田區三崎町二ノ四
印刷所　一匡印刷所　東京市神田區三崎町二ノ四
定價一部20錢・送料5厘
［會員以外の年極購讀はとりあつかいません。］
發行所　財團法人日本エスペラント學會　振替東京11325
東京市本郷區元町 1 丁目 13 番地 4　電話小石川 5415

エスペラント捷徑

小坂狷二著

四六判紙裝 150 ぺイジ・定價 50 錢・送料 6 錢

外國語の素養ある者のため

最も信頼すべき獨習書として，古典的聲價をもち，エスペラントの獨習書といえば，ただちに「捷徑」といわれるほどになつている。1 册を前後 2 篇にわけ，前篇では，多くの文例を交へ，系統的に文法を敎へ，後篇では，童話・會話・詩・諺・小說・演說など，いろいろな種類の文章を與へこれに，模範的な譯文と，深切な註釋とを加へ，さらに，「作詩法」を添へエスペラント詩を作り，あるいは，これを鑑賞するための手引としてある

本書 1 册を十分に讀みこなせば，1 人まへのエスペランチストとして恥かしくないだけの實力を備へることができる。

小學校を卒業しただけの人のための獨習書

エスペラント講座

菊判・104 ぺイジ
定價 50 錢・送料 6 錢

全 1 卷を 3 篇にわけ，上篇は外國語の知識の全然ないものにもよくわかるよう，全くの ABC からはじめて，初等文法一般を說き，中篇は，上級文法，後篇は，深切な譯註つきの讀物を多數入れてある。これについて學べば，小學校卒業だけのものでも，最短期間に最大の實力を得ることができること請合ひである。

學會取次

OES 文庫第 1 篇

VERDA KANTARO

謄寫版刷・四六判 60 頁・45 曲・樂譜附
頒價 60 錢・送料 3 錢

○

城戸崎益敏著

エスペラント第一歩

菊判 147 ぺイジ・1 圓 50 錢・送料 10 錢
白水社版

○

宮武正道著

Japana Gramatiko per Esp.

三五判 143 ぺイジ・1 圓・送料 3 錢
岡崎屋版

宣傳と學習をかねた小册子

エスペラント案内

四六判 48 ぺイジ美本・定價 30 錢・送料 3 錢

城戸城益敏著

「知識」15 ぺイジ，「文法」15 ぺイジ，「讀み物」7 課。

最上質の用紙に，全文 6 ポイントと 7 ポイントとの活字で，ぎつちりと，しかし鮮明無比に印刷してあるから，みかけは瀟洒なパンフレットであるが，內容は，普通の書物の百數十ぺイジにあたり，大活字本以上に讀みやすい。寫眞版凸版 40 個入り。これ 1 册でエスペラントとは何か，といふことから，文法全般にいたるまで知ることができる。まさにエスペラント獨修書中の豆戰艦である。

財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町 1–13・振替東京 11325

Monate eldonata de
Japana Esperanto-Instituto
Japanujo, TOKIO, Hongo-Motomati
Abonkotizo: 4 jen.

…第三種郵便物認可
昭和十五年三月十日印刷納本
昭和十五年四月一日發行（毎月一回一日發行）
「エスペラント」第八年第四號
定價二十錢（送料五厘）

昭和七年一月十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和十五年四月十日印刷納本・昭和十五年五月一日發行 第八年 第五號

エスペラント

LA REVUO ORIENTA

5月號

Al Miyazaki, al la XXVIIIa!

Vokas vin la patra tero,
filoj de l' gent' Jamata!
Bone venu kun espero
al Kongreso atendata!

Jen salute saltas ondoj,
sub lazuro de l' ĉielo,
kaj plezure verdas montoj,
ĉiam freŝa praa belo!

Tronas tie la kolono
de la kosma fundamento;
ĝi staregas kun impono
en alta firmamento.

Sub ĝin venu la anaro
de la nova homkulturo,
kun promes' al sankta faro,
por firmigi ĝin en ĵuro.

(M.-S.)

La XXVIII a
Japana Esperanto-Kongreso
gratule pro la 2600 jara jubileo
de japana erao
Aprilo 28–30
MIYAZAKI

聖地日向へ

紀元二千六百年奉祝
第二十八回日本エスペラント大會
於宮崎市 四月二十八日－三十日

ATUSI

Jaro XXI N-ro 5

1940 ~ 8.5

新撰エス和辭典

岡本好次編
ポケツト型約 300 ペイジ
並（クロース裝）60 錢・送料 6 錢
上（革裝）80 錢・送料 6 錢

エス和辭典のうち，最もすぐれたものとして絕對的な信頼を受け，エスペラントの字引といへば，すぐ「新撰」といふくらゐである。型はポケットにしのばすに適する小さいものであるが，單語の數は最も多く，すでに 50 版を重ねてはゐるが，新しい語彙は，つねに追加して，最も新しいものにいたるまで收めてあり，譯語は最も正確，學習者が片時も傍を離してならないものである。

新撰和エス辭典

岡本好次編
コンサイス型 67 行 2 段組 824 ペイジ
革表紙
2 圓 50 錢・送料 6 錢

見出語約 7 萬，各種專門語，最新語にいたるまで收めてある。譯語はきはめて正確妥當，世界中のおもなエスペラント辭典を全部參照してあるから，これ 1 册で，それら全部に匹敵する。堂々 120 ペイジの附錄には，人名，地名，滿支人姓の讀み方，星座名などの譯，和文エス譯法，そのほか，エスペランチストに日常必要な事項を滿載。印刷は鮮明無比，裝釘は瀟洒，製本はきはめて丈夫である。

エスペラント 單語カード

城戸崎益敏著
1 圓 50 錢・送料 14 錢

エスペラント文例集

四六倍判 150 ペイジ・80 錢・送料 6 錢

動詞，形容詞，副辭のうち日常最も多く用ゐられる重要な單語 720 語を選び，それぞれに多くの造語例，使用文例を添へてあるから，單に單語諳記用としてのみでなく，和文エス譯，自由作文などの參考用としても最も有益なものである。別に，同一內容の書架用の大形本「エスペラント文例集」がある。

綠星章

甲（和服用），乙（背廣用）
40 錢・送料 4 錢
丙（和服用），丁（背廣用）
80 錢・送料 4 錢
小型（和服用と背廣用あり）
40 錢・送料 4 錢
會員章（學會會員に限る）
70 錢・送料 4 錢

エスペランチストの紋章は平和と希望との象徵「綠の星」である。エスペラントを學ぶ者は，すべてこれを胸に輝かして，お互の合印としてゐる。本會制定の綠星章は，いづれも美しい七寶製である。

甲，乙，小型は合金臺，丙，丁，會員章は純銀臺で，甲，乙，丙，丁は白地綠星を圍むコバルト色の環に Internacia lingvo. Esperanto の文字入，小型は白地に綠星，會員章は，綠星に Esperanto-JEI の文字入。

圖書目錄は 3 錢切手封入お申込みください

東京本鄉元町　財團法人 日本エスペラント學會　振替東京 11325 番

エスペラント
LA REVUO ORIENTA

• Majo 1940 •

LA ENHAVO